



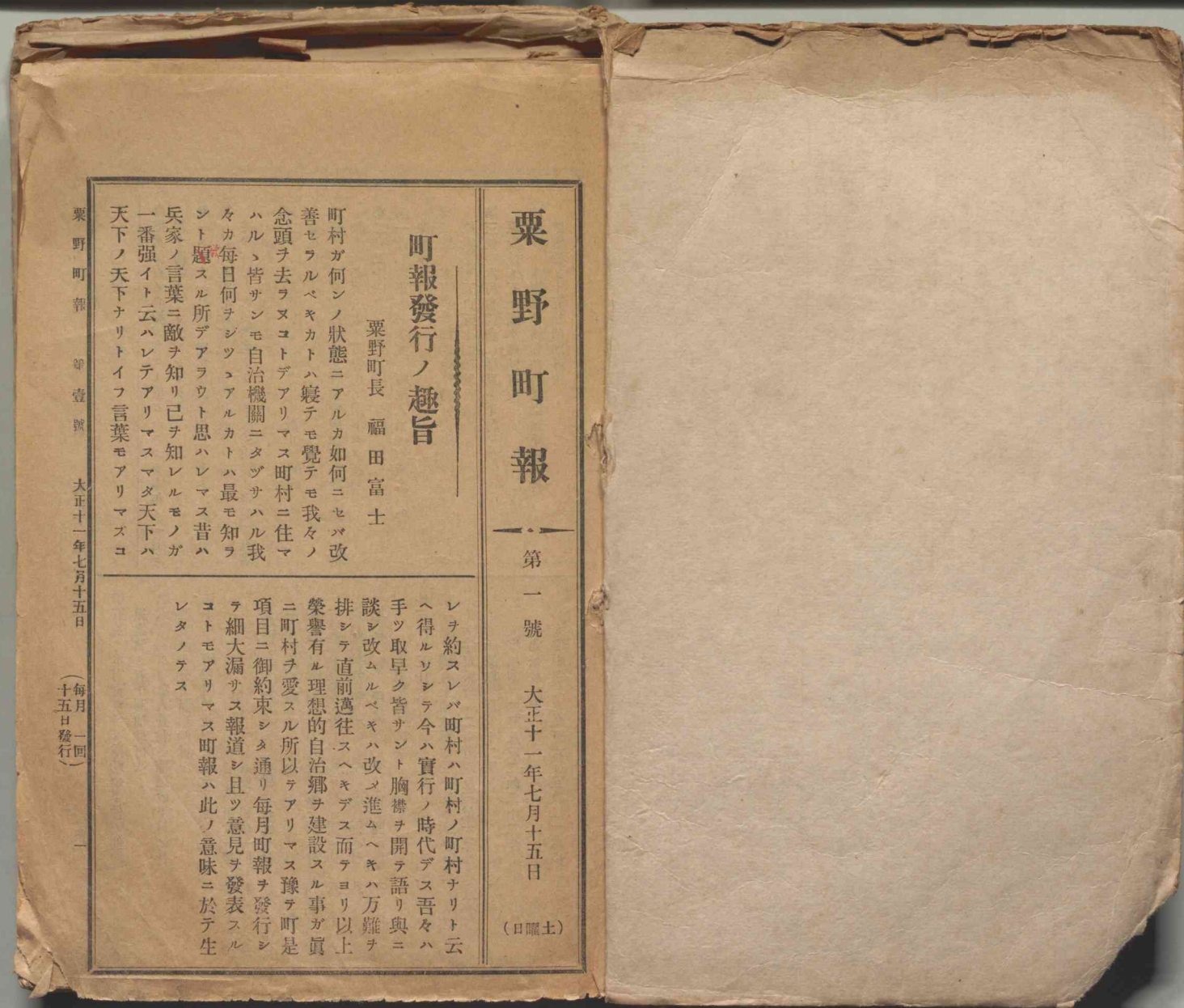
大正十一年七月第一號以降  
栗野町報綴  
栗野町役場

536 栗野地区 栗野町収集文書

ア2







栗野町報

第一號

大正十一年七月十五日

(日曜土)

町報發行ノ趣旨

栗野町長 福田富士

町村ガ何ノ状態ニアルカ如何ニセバ改善セラルベキカトハ寢テモ覺テモ我々ノ念頭ヲ去ラヌコトデアリマス町村ニ住マハル、皆サンモ自治機關ニタヅサハル我々カ毎日何ヲシツ、アルカトハ最モ知ラント題スル所デアラウト思ハレマス昔ハ兵家ノ言葉ニ敵ヲ知り己ヲ知レルモノガ一番強イト云ハレテアリマス天下ノ天下ノ天下ナリトイフ言葉モアリマス

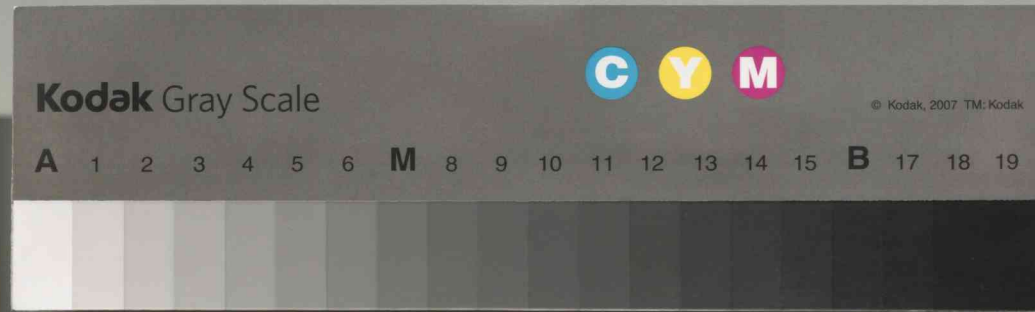
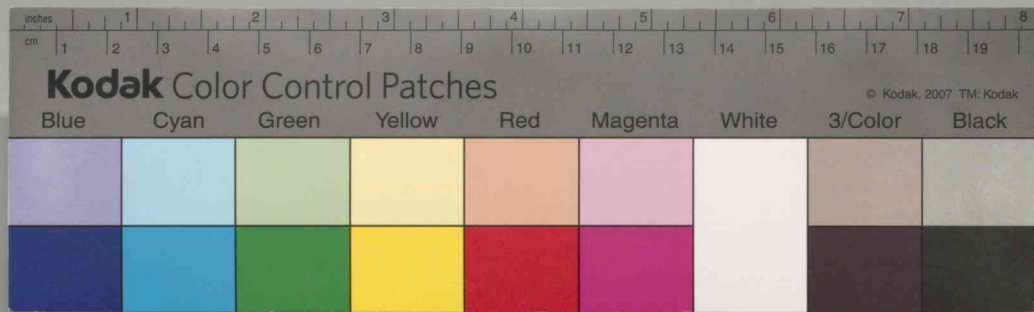
レヲ約スレバ町村ハ町村ノ町村ナリト云ヘ得ルソシテ今ハ實行ノ時代デス吾々ハ手ツ取早ク皆サント胸襟ヲ開テ語り與ニ談シ改ムルベキハ改メ進ムベキハ万難ヲ排シテ直前邁往スヘキデス而テヨリ以上榮譽有ル理想的自治郷ヲ建設スル事ガ眞ニ町村ヲ愛スル所以デアリマス豫テ町是項目ニ御約束シタ通り毎月町報ヲ發行シテ細大漏サス報道シ且ツ意見ヲ發表スルコトモアリマス町報ハ此ノ意味ニ於テ生レタノテス

栗野町報 第一號 大正十一年七月十五日

(毎月一回 十五日發行)







栗野町報 第一卷 大正十一年七月十五日

○會議

●遂次保存ノ必要ガ有ルト信ジマスカラ本年ノ一月ニ  
廻テ掲載スルコトニシマシタ

●一月三十一日 開會決議事項左ノ如シ

第一號 本町有給吏員定員規程改正ノ件  
從來書記ノ定員四名ナリシヲ有給吏員ノ定員ヲ五名  
ニ變更(書記補共)

第二號 栗野町吏員給料額規定改正ノ件  
修正可決

第三號 上都賀郡道入栗野栗野線敷地擴張ニ關スル件  
調査ノ必要上テノ町會迄宿題トシテ延期

●二月二十四日

第一號 大正十一年度本町歳入出豫算議定ノ件  
豫算修正可決

第二號 本町農會補助金下付ノ件  
原案通り五百五十圓補助可決

第三號 本町自彙會ヘ補助金下付ノ件  
原案通り五十圓補助可決

第四號 本町煙草耕作組合補助金下付ノ件  
原案通り十五圓補助可決

●三月十五日

第一號 國有土地水面讓受出願ニ關スル件  
大字口栗野 二十町四反三畝十三步六合五勺  
此筆數 百七十二筆

大字口栗野 二町八反二畝二十二步  
此筆數 十一筆

大字中栗野 九町六反五畝二十六步

此筆數 百二十四筆

大字入栗野 四町二反九畝六步五合  
此筆數 六十七筆

合計三十七町二反一畝八步一合五勺  
筆數三百七十四筆

以上國有ヲ讓受ケ栗野町有ト爲レリ

●三月二十四日

第一號 寄附受入ノ件  
上都賀郡道入栗野線入口道路擴張費中ヘ左記寄附受  
入原案ノ通り可決

金千圓	福田七右衛門	金五十圓	横尾 輝太郎
金百圓	落合 幸作	全	安發 清作
全	横尾勝右衛門	全	西村 茂一郎
全	小曾戸 兼吉	全	横瀨 武三郎
全	福田 義雄	金四十圓	神田 淺次
全	神田 富士	全	松本 菊次郎
全	鈴木 德三郎	全	秋山 榮太郎
全	齋藤 房吉	全	小峯 竹三郎
全	大牧 谷次郎	全	澤村 榮太郎
全	神山 一司	金三十五圓	岩出 常四郎
全	金六十圓	全	常四郎
全	金五十圓	全	光一郎
全	小島 宗造	金二十五圓	淺野 光一郎

金二十三圓大貫 平治 金子 善作

全 湯澤 恒 全 高橋 仲三郎

金二十圓 大串 芳三郎 全 齋藤 織四郎

金十五圓 福田 伊勢 全 増山 繁作

金八圓 大川 勝平 全 谷津 嘉一郎

金十五圓 坂本 傳四郎 金二十八圓安生 豊次郎

金三十圓 福田 米平 金二十五圓落合 善四郎

全 梶見 多平 金五圓 池澤 熊造

金參拾圓 金子 半七郎

金百九圓四十錢 小學校基本財産ニ寄附 増山欣三

亡父増山米作ノ香奠全部寄附

金八圓 町是ニ因ル寄附金 谷津嘉一郎 外二人

第二號 土地買収ニ關スル件

第一尋常高等小學校用道路敷地及試作地トシテ左記  
ノ土地ヲ買収スル原案ニ決定

口栗野字下町八百六番ノ二

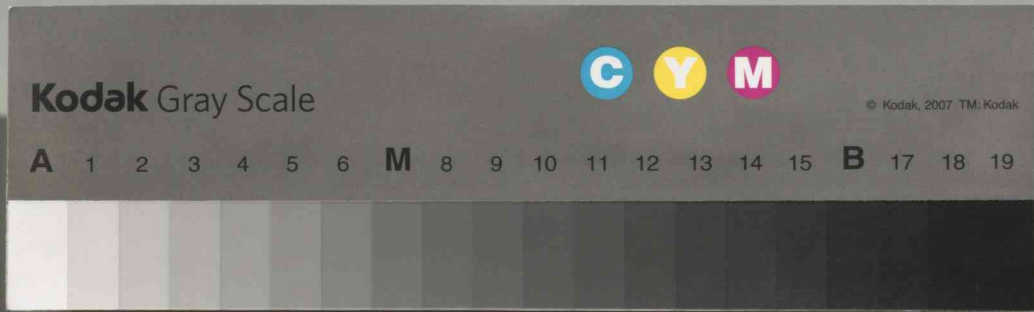
一、田十二步 福田七右衛門所有

一、原野二畝十八步 全人所有

全八百四番ノ四

一、田七畝一步 松本喜太郎所有 以上





栗野町報 第一卷 大正十一年七月十五日

五

### ○教育

學齡兒童が年々増加シ行クノ故に校舎狹隘ヲ告グテ増築ノ止ムナキ場合ニ立チ至リマシタ何分多額ノ金ガ掛ルノ物價騰貴ノ折柄デハ到底遺リ切レナイデ延期ヲ致シテ經濟界ノ稍々緩和サレタノヲ待テ愈々大正十一年七月校舍建築ニ取り掛カリマシタ其工費左ノ如シ  
 一金二万二千八百四十五圓也  
 第一尋常高等小學校建築費

一、舊五人組制度ニ則リ自治組合ヲ設ケ隣保互助ノ精神ヲ徹底的ニ實行スル事  
 一、毎月一回以上町報ヲ發行シテ町勢及必要事項ノ周知ヲ圖ル事  
 一、講演會、講話會ヲ開催シテ自治思想ノ普及ヲ圖ル事（以下次號）  
 注意  
 シテ示セル標識デスカラ網目トシテ紙上ニ列舉セラレタル迄デハ何等ノ價値モ有リマセヌ町民全体ガ踐躬實行シテコンソコニ偉大ノ効果ガ現ハレマス

### ○校舎坪數

第一尋常高等小學校  
 桁行 百二十尺 平家建屋根生子飯音校舎一棟  
 此建坪 百五坪  
 梁間 二十五尺五寸 平家建屋根生子飯音附屬昇降所  
 此建坪 十七坪

栗野町報 第一卷 大正十一年七月十五日

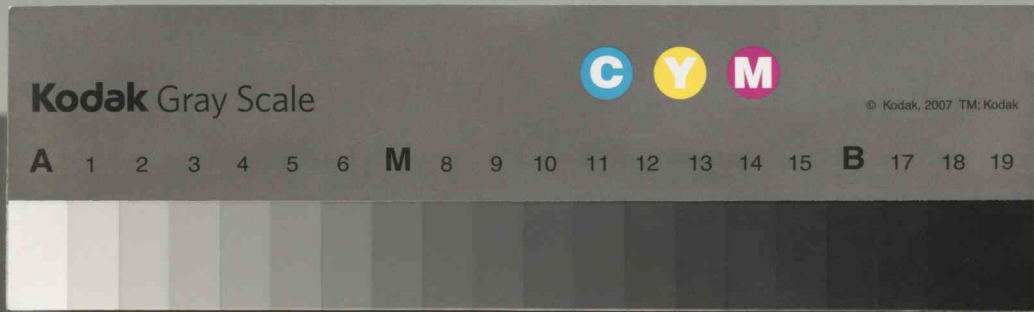
四

第三號 大正十一年度歳入出豫算追加更正ノ件  
 原案修正可決  
 第四號 有給助役俸給議定ノ件  
 原案可決  
 第五號 收入役俸給議定ノ件  
 原案可決  
 四月十日  
 第一號 遊興稅附加稅賦課徵收規定設定ノ件  
 原案可決  
 四月十三日  
 第一號 横根山雜木特賣ノ件  
 入栗野字横根山林中小字藤面澤全笠石全大小尾澤全大蛇尾澤ニ生立ノ雜木ヲ五月住民ニ特賣ノ原案可決此特賣價額金參千五百圓  
 理由 學校建築費等ノ爲メ町財政モ膨張シ是レカ補償ノ策トシテ始メ戸數割ヲ徵收スル計畫ナリシモ町民ノ負擔モ年々増加シ行ク狀態故恰モ好シ以上ノ雜木伐採年限ニ達シタルヲ以テ之ヲ賣却シテ町民負擔ノ輕減ヲ期セントスル趣旨ニ於テ財源ヲ此ニ求メタル次第ナリ  
 六月八日 六月十七日

第一號 縣稅戶數割賦課ニ關シ所得額調査ノ件  
 修正可決  
 第二號 府縣稅戶數割規則施行細則中第七條ニ依ル控除金額決定ノ件  
 左ノ通り修正可決  
 一、所得千圓以下ナルトキ  
 年輪十四才未滿若クハ六十才以上ノ者又ハ不具廢疾者一人ニ付 金三十圓  
 同一人ニ付 二十五圓  
 一、所得三千圓以下ナルトキ  
 同一人ニ付 十五圓  
 第三號 基本財産處分ニ關スル件  
 次ノ町會迄宿題トシテ延期  
 第四號 寄附物件受入ノ件  
 福田七右衛門ヨリ曩ニ寄附相成タル講堂内ニ御眞影奉安所ヲ寄附セラレ原案ノ通り受入可決  
 此工費六百三十三圓  
 伊澤勝三郎ヨリ本町基本財産中へ金五十圓寄附受入可決  
 ○栗野町是網目  
 第一 自治精神ノ涵養  
 一金七千九百八十七圓五十錢  
 第二 尋常高等小學校建築費  
 合計金四万七千九百四十一圓也  
 此工費支出内譯表  
 一金壹万四千三百九圓也 町費ヨリ支出但寄附金  
 一金壹万七千圓也 町基本金並ニ小學校基金運用  
 一金壹万六千六百三十二圓也 栃木縣教育資金  
 栃木縣立學校基金  
 株式會社栗野銀行借入金  
 合計四万七千九百四十一圓也  
 備考 縣立學校基金償還ハ大正十一年度ヨリ全十三年度迄三ヶ年縣教育基金償還モ前全斷  
 栗野銀行借入償還モ大正十一年度ヨリ全十四年度迄四ヶ年







栗野町報 第壹號 大正十一年七月十五日

●大正十年度栗野町穀物検査成績調

種別	検査俵数	合格	不合格	受檢人員	摘	要
大麥	二四	七	一七	二	氣候不順ノ爲メ品質不	
小麥	一一	五	六	二	氣候不順ノ爲メ品質不	
裸麥	一〇	〇	一〇	二	合格多シ	

種別	検査俵数	合格	不合格	受檢人員	摘	要
水稲種	四三	一八五	二〇九	一七	氣候不順ノ爲メ減收ノ	
全糶	六〇	二〇〇	三三	八	減少セリ	
陸稻糶	九	二	六	一	減少セリ	

●六月三十日 小學校生徒ニ依リテ行ハレタル家禽調査ハ教員監督ノ下ニ受持部署ニ就キ各戸ヲ訪問シテ調査シ得タル計數ヲ正確ノモノデアリマス前年ニ比シテ飼養戸數ニ於テハ八十六戸鶏數ニ於テ六百十九

種別	飼養戸數	成	雛	産卵自本年七月至本年八月(産卵共)	價額
鶏	三六〇	一四九二	一八	一四七六〇	約九、八〇〇
鶯	三	一八	四	二、一九〇	
計	三六三	一五一〇	二二	一四七六〇	

●平和記念東京博覽會受賞者  
本町ヨリ平和記念東京博覽會へ大蔵出品者三名ノ内  
大字中栗野福田安吉全川津彌太郎ノ両氏ハ品質優秀ノ廉ヲ以テ銀牌ヲ授賞セラル

栗野町報 第壹號 大正十一年七月十五日

反作	收穫高	價額	前年度收穫高	平年度收穫高	前年收穫高ニ比シテ	平年度收穫高ニ比シテ	摘	要
一、三三	三、四〇	三、七六	三、三三	二、九七	三、三	三、五	播種ヨリ結實ニ至ルマデ冷氣ノタメ減收	

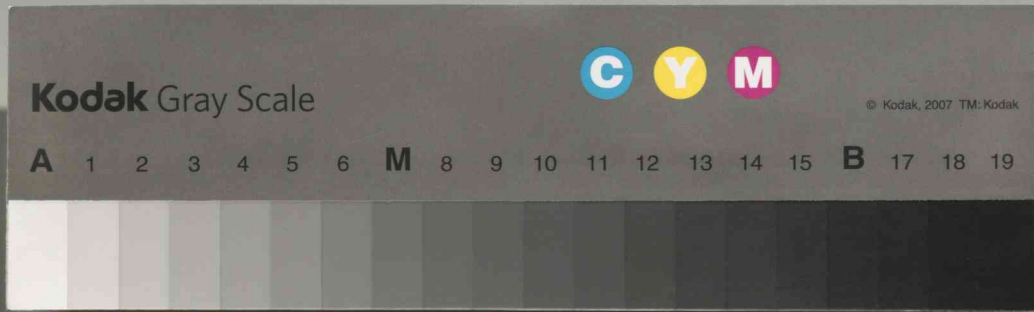
●六月中文化開發上參考資料ノタメ其筋ヨリ照會ノ重要案件左ノ如シ  
一、宗教心ノ涵養ニ關スル町長ノ意見  
二、宗教の信念ニ關スル一般狀況  
三、神社佛寺等所屬宗派祭神及ヒ男女別信仰者ノ數其平均年齡  
●答案ハ次號ニ掲載ス

○勸業及統計  
●大正十年度栗野町未收穫高調

栗野町報 第壹號 大正十一年七月十五日







栗野町報 第一號 大正十一年七月十五日

衛生

●本町ニ於ケル傳染病ノ發生ハ町民ノ衛生思想ノ發達ニ依リ逐年其數ヲ減少シツ、アルノハ洵ニ喜バシキコトデアリマス本年ハ不幸ニシテ一家ニ二名ノ癩瘡扶斯患者ヲ出シタノハ甚ダ遺憾ノコトデアリマス今ヤ夏季ニ入り傳染病發生ノ恐ルベキ時季デスカラ

種類	件數	種類	件數
出生	二二六	後見開始	一
死亡	九七	變更	一一
離婚	七七	正	一一
養子縁組	九	籍	一一
養子縁離	一七	就	一一
家督相續	一六	戸籍抄本下付	四九八
有籍家	一六	戸籍閱覽	五五三
分籍	二六	身分証明	三三二
入籍	二六	計	六四四
隠居	一	計	一、一四二
廢疾家	一	計	一、一四二

各自一層衛生上ノ注意ガ肝要デアリマス

- コレカラノ衛生心得
  - 一、朝夕ノ寝起ニ油斷スルトハカラザル悲シミアリ
  - 寝冷セヌヤウ子供ニハ腹巻ヲサセルコト
  - 雨戸ヲ開ケ放シテ寝テハ毒デス夜具衣服ハ日光ニサラシ風通シヲヨクスルコト
  - 二、食物ヲ吟味スルコト
    - 生ナモノノ不熟ノ果物ハタベナイコト
    - ヨヒ越シノモノハクサラストモ煮返(ス)コト
    - 勝手ハ清潔ニシテ食物ニ蠅ヤホコリノツカヌヤウニスルコト
  - 三、飲料水ニ注意セヨ
    - 飲料水ハ必ズ沸シテ用キルコト
    - 流シ元ハキレイニシテ下水ヲタメヌコト
    - 水水ハナルヘク呑マスコト。サイダー、ラムネ、ハ新ラシイモノヲ吟味シテノムコト
    - 四、輕キ病氣ヲソマツニセヌコト
      - カラダニ少シデモカワリガアルトキハ直グ醫師ノ診察ヲツケルコト
      - 賣藥ヤ加持祈禱ノミニタヨリテ手遅レニナラスコト
      - 喰ヒ過ヤ寝不足ハ病ノモトニナリマス注意スルコト

栗野町報 第一號 大正十一年七月十五日

稅務

●五月十六日成績優良納稅組合表彰式ヲ舉行シ受賞組員左ノ如シ

年別	組合數	人員數	組合數	人員數
大正八年	四七三七二	三〇二二六	七七五九八	七七五九八
大正九年	二六二〇〇	五二四一五	七八六一五	七八六一五
大正十年	二九二三五	四九三九三	七八六二八	七八六二八

●本年一月ヨリ六月マテノ間ニ於テ徵收シタル諸稅總額並ニ人員等ヲ示セハ左ノ如シ

稅目	稅別	稅額	人員
國稅	所得稅	四、四六〇、四〇〇	一、四〇九
	田租	二、七三五、一六〇	一、四〇九
	宅地租	四三二、二九〇	五四〇
	營業稅	二、四三七、四〇〇	一六〇
計		一〇、六四二、五〇〇	二、二九〇

●國稅ハ既往十年間完納ノ成績ヲ舉ゲ大正十年九月十五日付ヲ以テ東京稅務監督局長ヨリ表彰ヲ受ケタリ

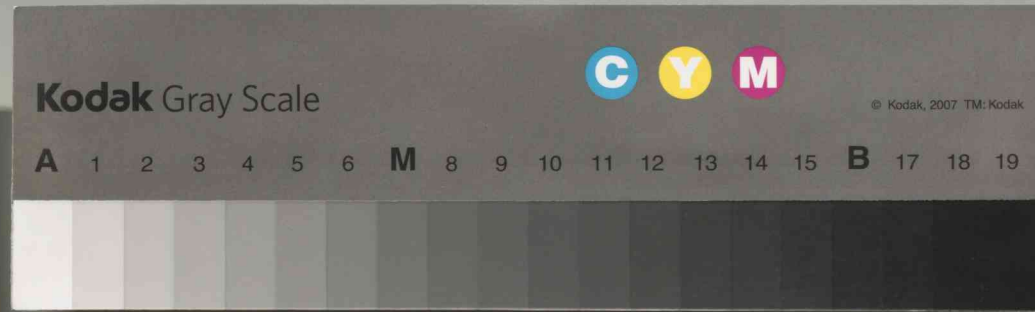
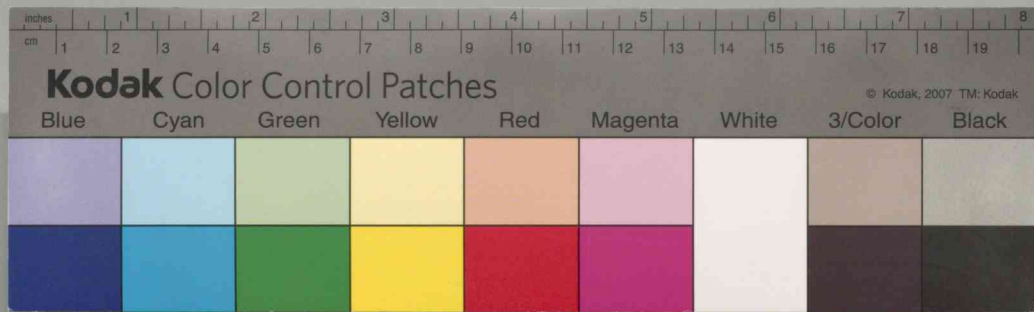
●縣稅及町稅

稅別	縣稅	町稅	人員
所得稅附加稅	三、〇〇七、三三三	一四四、二八四、四八	一四八
地租附加稅	三、一七〇、三三三	七九三、一四六、六六	一四八
營業稅附加稅	一、九一、六六六	八〇、一二三、二四	一〇
營業稅	三、四、四〇〇	二五二、二九、五	二五
雜稅	一、四四、三〇〇	九三、一、五四七、七	九三
計	九、六〇〇、〇三三	二、八三二、四七二、二八	二、二八三

●自轉車及諸車鑑札又ハ檢印ニ關スル注意  
諸車ノ修繕賣買等ノ際該鑑札等檢印ヲ勝手ニ取リ外シ之ヲ他ノ車体ニ取付ケ使用スルモノ往々有リ右ハ規則違反ニ付取外シノ必要アル場合ハ速カニ町役場ヘ届出規定ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス

●大正十年中本町ニ於ケル戸籍取扱事件ヲ示サバ左ノ如シ





栗野町報 第一號 大正十一年七月十五日

五、葬儀ハ成ルベク秋季迄延期スルコト  
◎景イ時多衆會同シテ飲食スルハ危險デスカラ成ル  
ベク十月中旬スギ冷シク爲ツテカラ舉行シタイノ  
デアリマス

●兵 事  
△大正十一年栗野町徴兵署ニ於ケル徴兵身体検査施行  
日及受檢町村名ハ左ノ如シ  
徴兵検査場 検査施行日 受檢町村名  
栗野第一尋常小學校 七月十八日 西方村、南摩村  
高等小學校 七月十九日 栗野町、  
真名子村、清洲村  
△検査ハ毎日午前七時開始ニ付壯丁ハ午前五時ニ検査  
場ニ出頭スルコト  
△抽籤ハ上都賀郡役所ニ於テ七月二十八日  
午前七時開始  
【本町受檢者其他調  
△當町本年徴兵受檢者其他徴集猶豫全延期者及前年送  
所在不明者左ノ通り  
一、徴兵受檢者 五十三人

●彙 報  
○大正九年十月一日全國一齊ニ執行サレタル第一回國  
勢調査ニ關シ記念章ヲ授與セラレタルヲ以テ九月三  
十日午後三時役場樓上ニ於テ町長出席ノ上之レガ傳  
達式ヲ舉ゲタリ其受ケタルモノ左ノ如シ  
町長 福田富士 主任助役 安發清作 副主任 廣瀬長市郎

●粟 野 町 報  
裏面ニ國勢調査記念章大正九年十月一日ノ  
文字ヲ識ス  
緘地幅一寸二分中央白左右紫兩線白  
第六條 記念章ハ本人ニ限り終身之ヲ佩用シ遺族之  
ヲ保存スルコトヲ許ス

●栗野町條例  
○栗野町助役定員條例 明治二十二年七月一日發布  
第一條 本町ハ制第五十二條但書ニ依リ助役ノ定員ヲ  
二名トス  
第二條 制第五十六條ニ依リ本町助役一名ヲ有給吏員  
トス  
第三條 助役ノ席次ハ名譽職助役ヲ以テ上席トス  
○公文公告式條例 明治二十四年十月十八日公布  
第一條 條例規則ハ定設ノ揭示場ニ揭示スルヲ以テ公  
布式トス  
第二條 條例規則ハ發布ノ年月日ヲ記シ町長又ハ代理  
者署名ス  
第三條 條例規則ハ揭示ノ當日ヨリ起算シ七日目ヲ以  
テ施行ノ期限トス  
但特ニ施行期日ヲ定ムルモノハ此限ニアラス

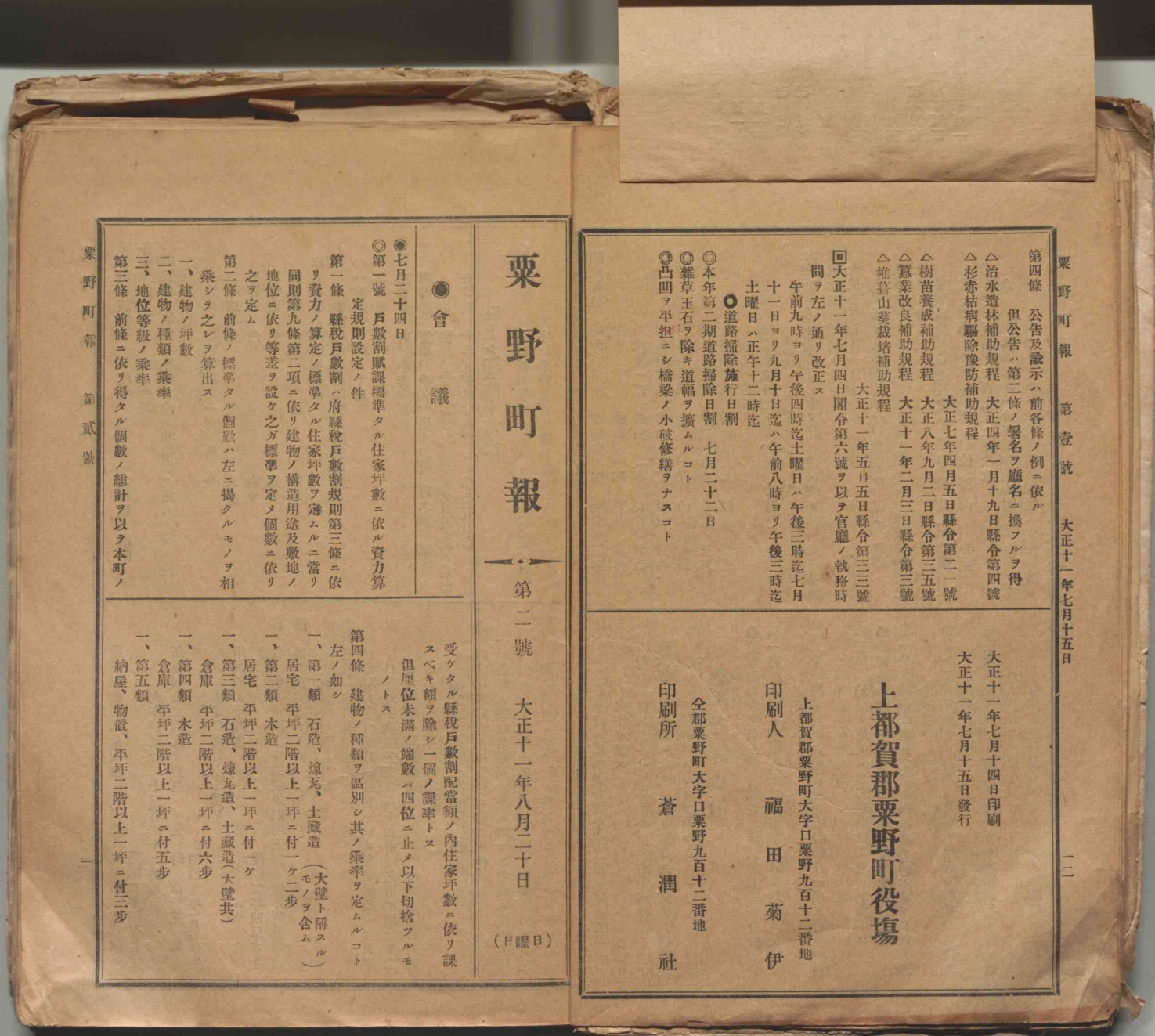
調査委員 神山 伊重 齋藤光次郎 福田平三郎  
金子 常作 福田彦一郎 岩井 與作  
川津祐一郎 岩出 要 大貫 平治  
阿部與惣八 神山 二三 戸坂 三男  
梶見喜兵衛 關本 美保 山崎源太郎  
増山平三郎 大出 昇作 牧野 三郎  
鈴木信治郎 神山直三九 岡本 恭三  
計二十四名  
第一回國勢調査記念章之證 (各通)  
勳等 氏 名  
大正十年勅令第二百七十二號ノ旨ニ依リ第一回國勢調  
査記念章ヲ授與セラル  
大正十年七月一日  
賞勳局總裁正四位勳一等伯爵兒 玉 秀 雄 團  
此証ヲ監査シ第 號ヲ以テ第一回國勢調査記  
念章簿冊ニ記入ス  
賞勳局書記官正五位勳四等 横田 郷 助 團  
賞勳局書記官正六位 郡 山 智 團  
(參照) 勅令第二百七十二號拔萃  
章 青銅圓形徑一寸表面菊花輪廓内ニ戶籍ノ卷  
物ヲ手ニセル大化年間ノ國司ノ立像ヲ表シ

栗野町報 第一號 大正十一年七月十五日









栗野町報

第二號

大正十一年八月二十日

(日曜日)

栗野町報 第一號 大正十一年七月十五日

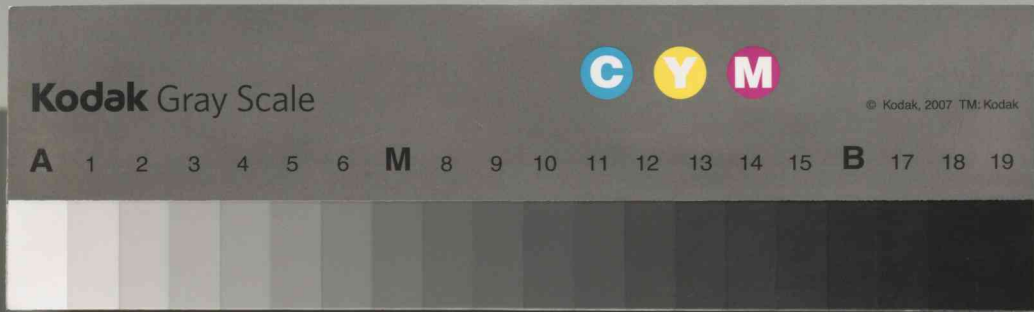
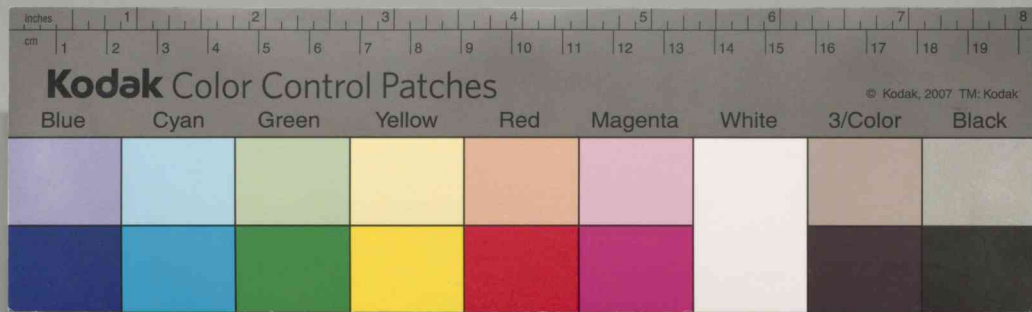
●七月二十四日  
 ◎第一號 戶數割賦課標準タル住家坪數ニ依リ資力算  
 定規則設定ノ件  
 第一條 縣稅戶數割ハ府縣稅戶數割規則第三條ニ依  
 リ資力ノ算定ノ標準タル住家坪數ヲ定ムルニ當リ  
 同則第九條第二項ニ依リ建物ノ構造用途及敷地ノ  
 地位ニ依リ等差ヲ設ケ之ガ標準ヲ定メ個數ニ依リ  
 之ヲ定ム  
 第二條 前條ノ標準タル個數ハ左ニ掲クルモノヲ相  
 乘シテ之レヲ算出ス  
 一、建物ノ坪數  
 二、建物ノ種類ノ乘率  
 三、地位等級ノ乘率  
 第三條 前條ニ依リ得タル個數ノ總計ヲ以テ本町ノ

受ケタル縣稅戶數割配當額ノ内住家坪數ニ依リ課  
 スベキ額ヲ除シ一個ノ課率トス  
 但厘位未滿ノ端數ハ四位ニ止メ以下切捨ツルモ  
 ノトス  
 第四條 建物ノ種類ヲ區別シ其ノ乘率ヲ定ムルコト  
 左ノ如シ  
 一、第一類 石造、煉瓦、土藏造 (大壁ト稱スル)  
 居宅 平坪二階以上一坪ニ付一ケニ付二步  
 一、第二類 木造  
 居宅 平坪二階以上一坪ニ付一ケ  
 一、第三類 石造、煉瓦造、土藏造 (大壁共)  
 倉庫 平坪二階以上一坪ニ付六步  
 一、第四類 木造  
 倉庫 平坪二階以上一坪ニ付五步  
 一、第五類  
 納屋、物置、平坪二階以上一坪ニ付三步

栗野町報 第一號 大正十一年七月十五日  
 第四條 公告及告示ハ前各條ノ例ニ依ル  
 但公告ハ第二條ノ署名ヲ廳名ニ換フルヲ得  
 △治水造林補助規程 大正四年一月十九日縣令第四號  
 △杉赤枯病驅除豫防補助規程 大正七年四月五日縣令第二一號  
 △樹苗養成補助規程 大正八年九月二日縣令第三五號  
 △蠶業改良補助規程 大正十一年二月三日縣令第三號  
 △椎茸山葵栽培補助規程 大正十一年五月五日縣令第三三號  
 大正十一年七月四日閣令第六號ヲ以テ官廳ノ執務時  
 間ヲ左ノ通り改正ス  
 午前九時ヨリ午後四時迄土曜日ハ午後三時迄七月  
 十一日ヨリ九月十日迄ハ午前八時ヨリ午後三時迄  
 土曜日ハ正午十二時迄  
 ◎道路掃除施行日割 七月二十二日  
 ◎本年第二期道路掃除日割 七月二十二日  
 ◎雜草玉石ヲ除キ道幅ヲ擴ムルコト  
 ◎西回ヲ平担ニシ橋梁ノ小破修繕ヲナスコト

上都賀郡栗野町役場  
 印刷所 蒼 潤 社  
 印刷人 福 田 菊 伊  
 上都賀郡栗野町大字口栗野九百十二番地  
 大正十一年七月十四日印刷  
 大正十一年七月十五日發行





栗野町報 第貳號

前各項ニ該當セサル建物アルトキハ其種類ヲ斟酌シテ各號ノ内ノ一種ノ率ヲ準用ス  
第五條 地位ニ等級ヲ設ケ其稅率ヲ定ムルコト左ノ如シ

一等地	建物個數 一個ニ付	壹ヶ
二等地	全	八歩
三等地	全	六歩
四等地	全	五歩
五等地	全	四歩

以上各等ノ區域ハ左記ノ通り  
戸數割地位等級區域箇所説明書  
一等地 中町、下町  
二等地 横町、上町  
三等地 叶、中妻、新宿  
四等地 笠場、桑澤、柏木、岡、梅木原、栗澤、日渡路、大字中栗野、大字入栗野字瀧ノ端迄  
五等地 大字入栗野字中内ヨリ字上五月份  
以上之通修正可決

◎第二號 縣稅戸數割賦課ニ關スル所得額決定ノ件  
大字口栗野九百四番地

左記 (願書等ス)

大字口栗野字桑澤千三百八十九番ノ一  
一町有土揚場實測五十八坪五合  
此年料金四十圓九十五錢  
期間 大正十一年七月ヨリ向滿五ヶ年  
當町大字口栗野淺野光一郎ヨリ水車用水路ニ使用ノ目的ヲ以テ町有土揚場別紙ノ通り拜借願出ニ付左記ノ條件ニ依リ之ヲ許可セントスルニ在リ

左記

大字口栗野字下町無番  
一町有土揚場實測三坪  
此年料金三十錢  
期間 大正十一年七月ヨリ向滿五ヶ年  
調査ノ爲メ次回迄延期

◎八月四日  
◎第一號 縣稅戸數割賦課ニ關スル件  
一金貳千五百六拾六圓  
大正十一年度縣稅戸數割本町配當額金五千三百三十二圓ノ内上半期分  
右各納稅義務者ニ對シ左ノ通り賦課セントス

所得額金百八拾圓也 岩崎市三郎  
大正十一年八月四日提出

所得額ニ依ル賦課金壹千七百五十八圓八十四錢  
所得壹圓ニ付金四厘  
二住家坪數ニヨル賦課金八十五圓五十八錢  
住家一坪ニ付金一厘  
三資産ノ狀況ニヨル賦課金七百二十一圓五十八錢  
資産ノ狀況ヲ斟酌シテ七百九十三人ニ賦課ス  
但一個ニ付金壹錢

原案前記ノ通り修正可決

◎前回繼續分  
一、本町退隱料條例改正ノ件  
大正十年十一月六日提出委員附託ノ處調査モ累テ修了シタルニヨリ次回ノ町會ニ於テ決定ノ筈  
一、官行造林施行申請ノ件  
當分其必要ヲ認めザルニ付否決  
一、基本財産處分ニ關スル件  
適當ノ時期ニ於テ決行スルコト、シ無期延期  
一、土地貸付ニ關スル件  
願人澤村榮太郎ニ本町有土揚場五十二坪九合一匁ヲ一坪金五十錢ノ割ニテ大正十一年七月ヨリ向滿

所得額金二千三百四十九番地 慶應二年四月廿日生  
所得額金二百九十圓也 矢野市三郎 明治九年一月七日生  
大字口栗野七十番地 關本長次 慶應二年四月廿日生  
所得額金千圓也

原案通り可決

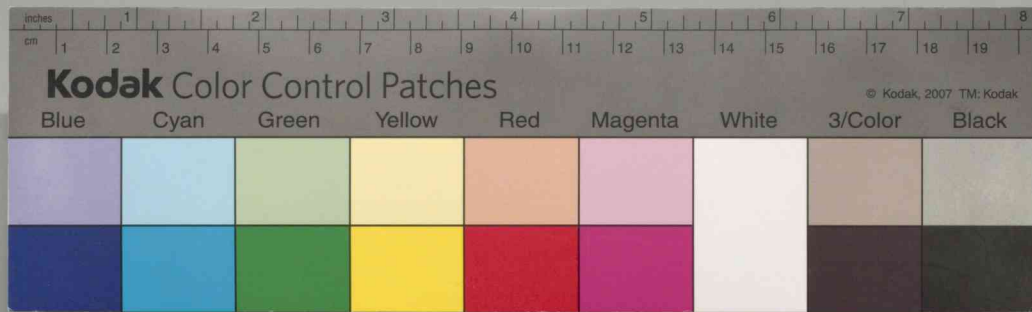
右ノ者ニ對スル縣稅戸數割規則第三條ニ依ル所得額頭書ノ通り決定セントス

◎第三號 本町有用水堀附換ニ關スル件  
一、當町大字口栗野澤村喜一ヨリ家屋建築ニ付大字口栗野字桑澤千三百八十九番地先用水堀長サ二十六間幅一間別紙願書ノ通り附換願出ニ付許可セントスルニ在リ(願書等ス)

調査ノ爲メ次回迄延期

◎第四號 本町有土地貸付ニ關スル件  
一、當町大字口栗野澤村榮太郎ヨリ宅地ニ使用ノ目的ヲ以テ町有土揚場別紙ノ通り拜借願出ニ付左記ノ條件ニ依リ之ヲ許可セントスルニ在リ





栗野町報 第貳號

五ヶ年間貸付ニ決定願入淺野光一郎ニ本町有土揚  
場三坪ヲ大正十一年四月一日ヨリ大正十六年三月  
三十一日迄滿五ヶ年間一坪金二十錢ノ割ニテ貸付  
決定  
一本町有用水堀附換ニ關スル件  
澤村喜一ヨリ附換願出ニ付調査ノ處支障無キモノ  
ト認メ許可決定 以上

● 庶務

大正十一年度歳入出豫算表

歳入 經常部	金千參百拾圓
第一款 財產ヨリ生スル收入	金千貳百參拾壹圓
第二款 基本財產收入	金七拾九圓
第三款 小學校基本財產收入	金千五百八拾壹圓
第四款 使用料及手数料	金千四百四拾八圓
第五款 手数料	金百三十三圓
第六款 國庫下渡金	金九百七拾壹圓
第七款 義務教育費下渡金	金九百七拾壹圓
第八款 國庫交附金	金千六拾貳圓

栗野町報 第貳號

第一款 役場費	金五千六百九拾貳圓
第二款 報酬	金百拾四圓
第三款 給料	金參千八百拾圓
第四款 雜給	金千參百〇三圓
第五款 需用費	金千〇〇五圓
第六款 修繕費	金九拾圓
第七款 會議費	金參百貳拾五圓
第八款 費用辨償	金貳百圓
第九款 給料	金拾貳圓
第十款 雜給	金八拾圓
第十一款 需用費	金千七百七拾參圓
第十二款 土木費	金千八百拾圓
第十三款 道路橋梁費	金四百八拾圓
第十四款 用惡水路費	金六百九拾參圓
第十五款 第一尋常高等小學校費	金壹万壹千壹百九圓
第十六款 給料	金一万〇百四圓
第十七款 雜給	金七百六拾八圓

● 庶務

第一款 國稅徵收交附金	金五百八十七圓
第二款 縣稅徵收交附金	金四百七拾五圓
第三款 縣補助金	金拾圓
第四款 寄附金	金四拾圓
第五款 教育費寄附金	金貳拾圓
第六款 小學校基本金寄附	金貳拾圓
第七款 繰越金	金貳千圓
第八款 前年度繰越金	金貳千圓
第九款 雜收入金	金百貳拾圓
第十款 實業補習學校役場雜收入	金拾五圓
第十一款 預金利息	金五拾圓
第十二款 雜替金戻入	金五拾五圓
第十三款 町稅	金參万貳千五百六拾八圓
第十四款 地租附加稅	金二千九百七拾五圓
第十五款 國稅營業稅附加稅	金千八百八拾三圓
第十六款 所得稅附加稅	金五百八拾壹圓
第十七款 營業稅附加稅	金參圓
第十八款 戶數附加稅	金三万三千五百三圓
第十九款 縣稅戶數割五千貳百貳拾八圓八拾壹錢壹圓ニ付	四圓五拾錢戶數七百五十六戶壹戶平均參拾壹圓六厘

栗野町報 第貳號

第一款 需用費	金千〇參拾七圓
第二款 修繕費	金八拾圓
第三款 給料	金四千三百三拾圓
第四款 雜給	金五百〇九圓
第五款 需用費	金四百拾壹圓
第六款 修繕費	金九拾圓
第七款 給料	金貳千四百拾圓
第八款 雜給	金千八百圓
第九款 需用費	金參百貳拾九圓
第十款 會議費	金百八拾壹圓
第十一款 費用辨償	金百圓
第十二款 給料	金九百貳拾圓
第十三款 雜給	金七百五拾六圓
第十四款 需用費	金五拾五圓
第十五款 給料	金九拾九圓
第十六款 雜給	金拾圓
第十七款 修繕費	金百六拾參圓
第十八款 恩給基金	金百六拾參圓
第十九款 學事諸費	金百六拾參圓
第二十款 學校組合會費	金百五拾八圓





栗野町報 第貳號

臨時部

第一款 納稅獎勵費 金參百六拾貳圓  
 第二款 補助費 金參百六拾貳圓  
 第一款 納稅獎勵費 金參百六拾貳圓  
 第二款 補助費 金參百六拾貳圓  
 第一款 勸業補助費 金六百拾五圓  
 第二款 教育補助 金五百拾圓  
 第三款 軍人分會補助 金五百拾圓  
 第三款 公債費 金五千八百〇貳圓

勸業及統計

第一款 元金償還 金四千六百六圓  
 第二款 利子 金千五百拾四圓  
 第四款 基本金運用費 金八百五拾圓  
 第一款 基本金運用利子 金八百五拾圓  
 臨時部計金七千七百貳拾九圓  
 歲出總計金參萬九千六百六拾貳圓  
 以上

栗野町報 第貳號

第六

第十七款 積立金 金七拾五圓  
 第一款 罹災救助基金造成 金七拾五圓  
 第十八款 財產費 金百九拾壹圓  
 第一款 管理費 金百九拾壹圓  
 第十九款 諸稅及負擔 金千六百拾七圓  
 第一款 諸稅 金百四拾七圓  
 第二款 負擔 金千四百七拾圓  
 第二十款 神祇社費 金參拾圓  
 第一款 神祇幣帛料 金參拾圓  
 第二十一款 公金取扱費 金百八拾圓  
 第一款 金庫費 金百八拾圓  
 第二十二款 雜費支出 金百九拾五圓  
 第一款 過年度支出 金貳拾圓  
 第二款 雜替金 金五拾五圓  
 第三款 雜費 金百貳拾圓  
 第二十三款 町是實行費 金百參拾圓  
 第一款 町是實行費 金百參拾圓  
 第二十四款 豫備費 金六百八拾壹圓  
 第一款 豫備費 金六百八拾壹圓  
 計金參萬九千九百參拾參圓

○米作反當收支計算 (大正十年度) (米一畝二十圓ニテ計算ス) 栗野町農會報

自作 收穫高 一七〇〇 施肥代 一、〇〇〇 粗種子代 八八 農具損料 三、〇〇〇 公租 八、〇四 收穫價格 四二、五〇 純益金 一八、五八  
 小作 收穫高 一、七〇〇 施肥代 一〇、五〇 粗種子代 八八 農具損料 二、二〇〇 小作料 一、二〇 農會費及環掛 一、二〇 不 一、七八  
 但シ屑米三斗此ノ代金六圓及糞百二十貫此ノ代金約四圓アリ

○麥作反當收支計算

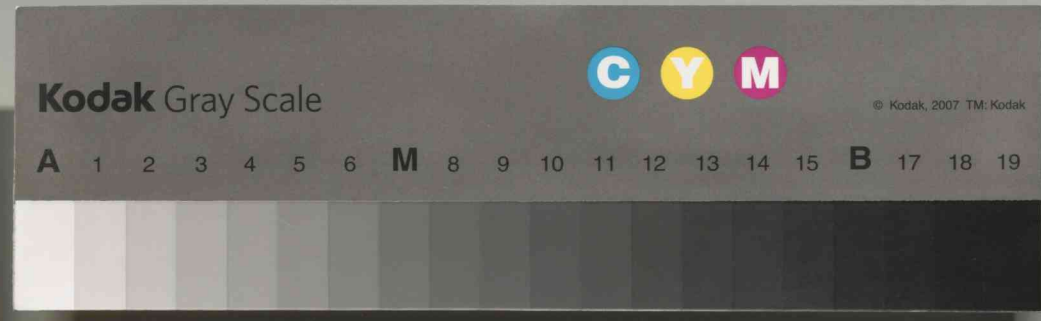
自作 收穫高 二、二〇〇 施肥代 八、五〇 種子代 一、二〇 農具損料 二、二〇〇 收穫價格 一七、六〇 純益金 五、九〇 備 三字平均 考

栗野町報 第貳號

七







栗野町報 第貳號

各種縣稅營業者 大正十年度

種別	人員	稅額	備考
販賣品	一三〇人	二六二五〇〇	一等二人二等五人三等五人
行商	三六八人	三四二五〇〇	五等五人六等五人七等五人
牛馬	二八五分	一二五〇〇〇	六等十一人五分
代理業	四八五分	一八〇〇〇〇	二等四人五分
仲買業	四人	一六〇〇〇〇	二等四人
金錢貸付業	四人	三八〇〇〇〇	一等二人二等一人三等一人
運送業	四人	九五〇〇〇〇	一等二人二等一人
旅人宿	八人	二八〇〇〇〇	二十七條ニ依ルモノ一人
藝妓屋	一人五分	八五〇〇〇〇	四等八人
料理屋	八人	八〇〇〇〇〇	三等八人旅人宿兼一人
飯食店	一人五分	二一〇〇〇〇	三等一人四等十四人
湯屋	一人	四五〇〇〇〇	三等一人料理兼一人
理髮人	四人	九七〇〇〇〇	三等使用人ナキモノ二人

衛生

年次	検査人員	重症中等症輕症計	百分ノ比
大正九年	五十八人	一人三人	六、九〇
大正十年	五十八人	二人三人	八、六二
大正十一年	四十九人	一人七人	二八、三五

本年徴兵身体検査ノ結果本町壯丁受檢者數四十九人(入寄留者ヲ含ム)中デ九名ノトラホーム患者ガアリマシタガ誠ニ遺憾ノコトデアリマス該病ハ國民保健上密接ノ關係アルハ今更言フ迄モアリマセンガ重症ニナルト終ニ失明シテ取り返シノツカヌコトニナリマスカラトラホーム患者ハ速ニ醫師ノ治療ヲ受ケ全治ナサイ前三ケ年ノ成績ヲ示サバ左ノ通りデアリマス健康ノ人モ該病ニ罹カラヌ様ニ日常注意ガ肝要デアリマス(入寄留者ヲ含ム)

栗野町報 第貳號

財務

今更云フ迄モナク納稅ハ國民最大義務ノ一デ本町ハ從來納稅ノ成績ハ優秀ノ方デ良風美俗トシテ喧傳サレテ居リマス然ルニ一タビ滞納者ヲ生ジタル場合ハ多年築キ上ダタ此ノ名譽ヲ一朝ニシテ破壊サルハ遺憾ガ有リマス良風美俗ハ良風美俗トシテ永遠無窮ニ維持シタイノデアリマス

府縣稅戶數割則第四條ニ依ル大正十年年度直接國稅及直接府縣稅ノ稅額並大正十二年度始納稅義務者數

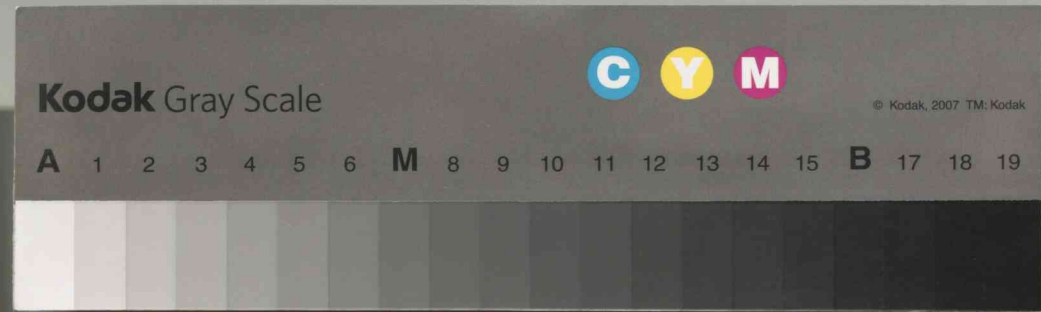
分區	稅目	自町村	他市町村	計
國稅	地稅	租五、〇六、五三、三六、五	三、二五、八元、七、二四、五	八、三二、四、三、一〇、〇
	營業稅	租四、〇九、三	一、四、八九、三	五、五八、六
	第三種所得稅	八、九三、九	一、八九、二、九	一〇、八三、一
府縣稅	營業稅	七、四〇	一	七、四〇
	地稅	一	一	二
	總計	一八、五九、八、三、一〇、〇	四、八三、三、三、七〇、三	二三、四三、一、六、八〇、三

稅砂鑛區稅

計	地稅附加稅	府營業稅附加稅	所得稅附加稅	附屬營業稅	附屬營業稅附加稅	鑛業附加稅	鑛業附加稅附加稅	總計
八、一五九、八、三、一〇、〇	一、九四、四、四、三	六、六、七、三	一、九四、四、四、三	四、九	四、九	八、四九、一、五	四、四	一三、四三、一、六、八〇、三

他市町村へ通知シタル分三百三十二圓六十九錢差引  
國府縣稅額合計參萬參千參百八拾圓參拾四錢  
納稅義務者數七百九拾參人  
內譯一戶ヲ構フルモノ七九〇人  
縣外及私法人建物ナシ





栗野町報 第貳號

栗野町報 第貳號

トラホームニ關スル注意

- 一、手拭ノ賃借ヲセヌコト
- 二、病人ノ洗面器ヲ別ニスルコト
- 三、トラホームハ主ニ手拭カラ感染シマス
- 四、眼脂ヲ拭フニハ清潔ナ布ヲ用ヘ便ツタ後ハ成ルベク燒棄テ下サイ
- 五、其他ノ場合デモ洗面器ハヨク洗ツテ用ユルコト

●兵 事

當町壯丁ニ對スル徵兵身體検査ハ七月十八日本町第一尋常高等小學校内栗野徵兵署ニ於テ執行シタルガ其結果及前三ヶ年ノ体格等位比較ヲ示サバ左ノ如シ

自大正九年栗野町体格等位比較表

年 次	検査人員		甲種		乙種		丙種		丁種		甲種ニ對スル百分比
	甲種	乙種	第一種	第二種	第一種	第二種	第一種	第二種	第一種	第二種	
大正九年	五六二	八二	六二	二二	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
大正十年	五八二	四四	九二	二五	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
大正十一年	四七一	一四	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一

壯丁ニ對スル体格ハ年ヲ逐テ低下スルハ國家ノ爲メ甚

第三條 印鑑届出ニ方リ本人自身出頭スルコト能ハサル時ハ別ニ其理由ヲ記シタル届書ヲ認メ之ニ前條規定ノ印鑑ヲ貼付シ且ツ印鑑用紙ト届書ニ同一印ヲ以テ契印スベシ此ノ場合ニ在リテハ證人二人以上ノ連署ヲ要ス

第四條 印鑑届出後其印願ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ三日以内ニ其届出ヲ爲スヘシ

第五條 印鑑ノ證明ヲ受ケントスルトキハ第四條ニ準據シ願出用紙ニ其印鑑ヲ貼付スヘシ

第六條 本條例ハ公布ノ翌日ヨリ施行ス

●彙 報

●七月二十二日付上第四、五四一號ヲ以テ其筋ヨリ左ノ通牒カ有リマシタ

▽消費節約ニ關スル件通牒

戦後我々經濟界ノ變動ニ伴ヒ我國民ノ生活状態ハ前途大ニ憂慮スヘキ有様ニシテ相共ニ戒メテ勤儉力行ノ美風ヲ興シ特ニ消費節約ノ方法ヲ講シ以テ生活ノ安定ヲ期スヘキコト刻下ノ急務ト存候處本縣ニ於テハ屢ニ制定

ダ憂フベキコトデアリマス体格ノ發達ト体力ノ増進ヲ計ルコトハ國防上カラ云フテモ國力ノ充實ヲ計ル上ニ於テモ又産業ノ能率ヲ増進スル点カラ云フテモ最モ重要ナコトデアリマスカラ將來一層益ニ留意シ質實剛健ノ精神ト優良強健ノ体力トヲ養成スルコトニ努力ヲ望ミマス

●栗野町條例

○印鑑條例

大正十年十一月六日決議 全 年十二月十九日許可 全 年十二月廿二日告示第三十五號公布

第一條 印鑑ノ證明ヲ受ケントスル者ハ自身町役場ヘ出頭シテ其届出ヲ爲スヘシ

但印鑑ハ壹人一種ニ限ル

第二條 印鑑届ハ左ノ様式ニ依ルヘシ

長金尺五寸  
巾一 寸  
厚紙ヲ用フ

印 鑑

本籍 住居 何 番地 某 日生

セラレタル町村中ニ是等事項掲ケラレタルヲ以テ各位ハ夫々該趣旨ノ徹底ニ努メ居ラル、コト、存候ヘ共此際一層冗費ヲ節約シ例ヘハ

- ◎日用調度品ノ贅澤ナラサルコト
- ◎衣服ハ成ルヘク木綿ヲ用フルコト
- ◎贈答品ハ廢止スルコト若ハ止ヲ得サルトキト雖モ濫費ナラシメサルコト
- ◎冠婚葬祭ニ於ケル冗品ノ節約ヲナスコト
- ◎節酒ヲ實行スルコト成ルヘク宴會等ヲ避ケ止ムヲ得サル場合ハ極メテ質素ニスルコト
- ◎生活ヲ簡素ニシ時間ヲ勵行シ勤儉貯蓄ヲ獎勵スルコト

◎明是ノ趣旨ノ宣傳及力行ニ努メ所期ノ目的ヲ達成スルコト

▽綴方教授法研究会大要

栗野町外四ヶ村ヨリ成ル上都賀郡小學校第三組合會ハ教育ノ改良進歩ヲ計ランカタメ七月三十日午前十時ヨリ栗野第一尋常高等小學校ニ於テ開會シ講師本縣師範學校附屬小學校訓導野口要氏ノ尋常科四學年綴方實地授業及該科ニ關スル講話有リ正午終了出席者組合内小學校教員全部ニシテ男女計六十二名ナリキ當八月二十





**栗野町報**

第三號 大正十一年九月二十日 (日曜水)

○願届書様式

印鑑證明願

本籍 栃木縣上都賀郡栗野町大字 栗野 番地  
住所 栃木縣上都賀郡栗野町大字 栗野 番地

何 之 誰 誰

年 月 日 生

年 月 日 誰

右印鑑證明被成下度此段相願候也

大正 年 月 日 右 何 之 誰 印

栗野町長 福田富士殿

栗野町報 第貳號

五日、二十六日ノ兩日井縣視學ヲ聘シ國史ノ講習會ヲ開ク筈ナリ

○八月九日午前八時東京府西多摩郡書記岡野龜吉氏外五氏事務視察ノタメ來町シ諸般ノ施設事項ヲ聽取シ參考資料トシテ大正十一年度歳入出豫算表、町是網目、部落有財產統一ノ願末、栗野町報、納稅成績表等印刷物ノ寄與ヲ求メ同十時辭去セラル

栃木縣上都賀郡栗野町役場内  
編輯兼 福田富士  
發行人 福田富士

大正十一年八月十五日印刷  
大正十一年八月二十日出版

栃木縣上都賀郡栗野町大字口栗野九壹貳番地  
印刷人 福田菊伊

發行所 栃木縣上都賀郡 栗野町役場

學 事

◎大正十一年三月尋常小學校卒業後ノ狀況左ノ通リ

第一票 尋常科卒業者

- 一尋常小學校卒業者數 男四四人 計八六人
- 一尋常小學校又ハ高等女學校入學者 女四二人
- 一栗野實業補習學校入學者 女三人 計四人
- 一高等小學校入學者 男一人 計一人
- 一高等小學校又ハ高等女學校入學者 女三五五人 計六六人
- 合計 男三六人 女三〇人 計六六人

第二票 高等一學年修了者

- 一高等小學校一學年修了者數 男三九人 女三八人 計七〇人
- 一高等小學校二學年進入生 男三二人 女一八人 計五〇人
- 一中學校又ハ高等女學校入學者 男一人 計一人

第三號 大正十一年九月二十日 (日曜水)

一實業學校入學者(鹿沼) 男一人 計一人

一栗野實業補習學校入學者 女二人 計二人

合計 男三四人 女二〇人 計五十四人

◎大正十一年度本町小學校學級編制ハ左表ノ如シ

栗野第一尋常高等小學校

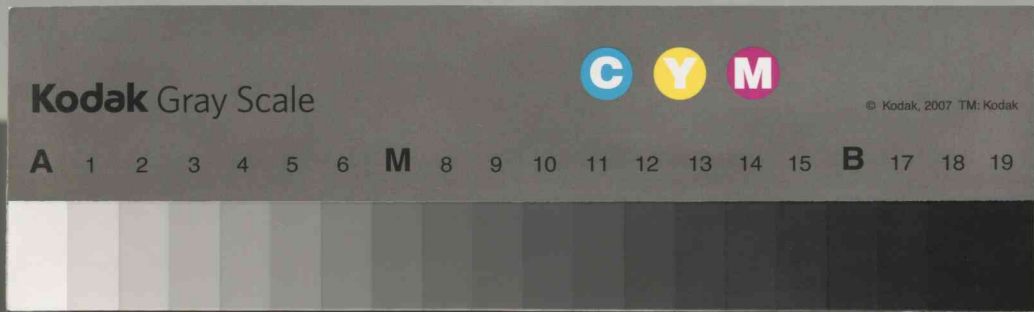
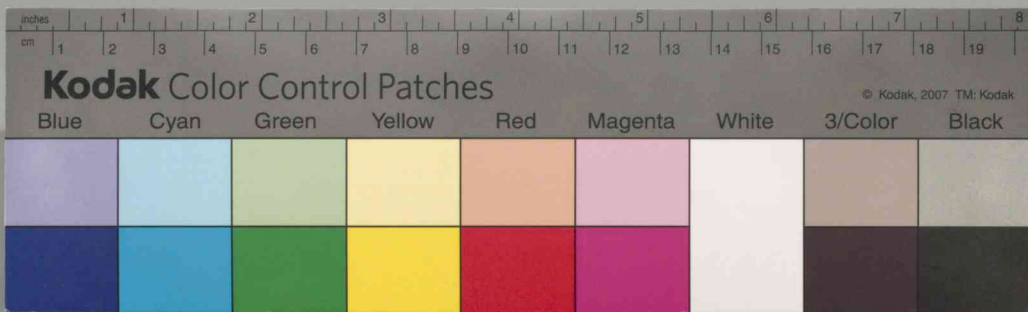
- 一尋常科兒童數 四百九拾九人 內 男二四六人 女二五三人
- 一高等科兒童數 百一十一人 內 男七六人 女三五五人

內 譯

- 尋常科一學年 四四人 男一九人 女二五人 一學級
- 一學年 四六人 男一七人 女二九人 全
- 二學年 四五人 男二二人 女二四人 全
- 三學年 四四人 男一六人 女二八人 全
- 四學年 四二人 男二二人 女二八人 全

栗野町報 第叁號





栗野町報 第叁號

栗野町報 第叁號

庶務

本篇ハ第二號ニ掲載スベカリシヲ記事編輯ノタメ本號ニ掲グルコトニ致シマシタ宗教ニ關スル其筋ヘノ回答デアリマス尙他日ノ機會ニ於テ詳論ヲ試ミマス

◎宗教心ノ涵養ニ關スル私見

之ヲ汎ク一般ニ批判スル時ハ種々ナル議論有ドモ本町ニ最モ適切ニシテ言フテ直チニ行ヘ得ベキ事項ヲ具體的ニ開陳スベシ

一、寺院ノ現任職ヲシテ専心布教宣傳セシムルコト

理由

寺院ハ比較的富裕ニシテ且ツ時間ヲ有ス加フルニ其業トシテ之ヲ廣宣流布スベキ職ニ在リ抑々住職ノ名稱タルヤ釋迦ノ大法ニ住持シ之ニ職由シテ一切衆生ヲ濟度スルヲ念トセザルベカラズ然ルニ能ク之ヲ爲スモノ幾人カ有ル面テ説クニ當リテモ昔流ノ隨喜清仰ノ難有涙ヲ強ユルガ如キ行キ方ニテハ何等ノ甲斐無シ知識ノ進ミタル現代人(殊ニ青年)ニハ少ナクモ大乘ノ神髓タル維摩經、楞嚴經、勝鬘經、大乘起信論等ヲ説クヲ要ス概シテ今ノ青年ハ宗教ニ對シテ

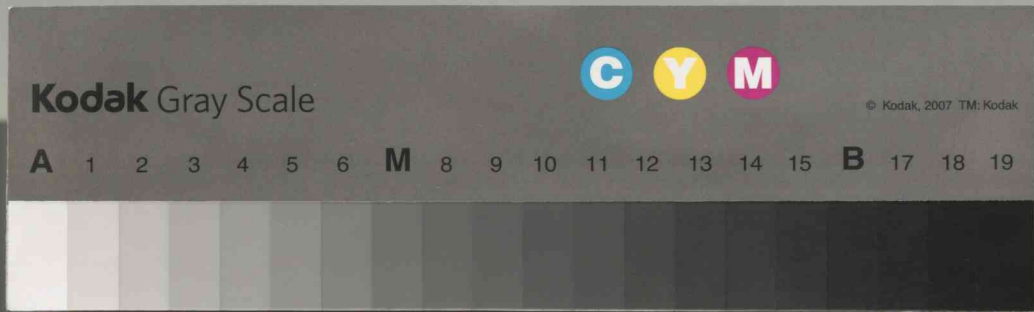
三

全	三學年	四二八	男二二八	女二二八	全
全	四學年	四三八	男四三八	全	全
全	四學年	三五八	女三五八	全	全
全	五學年	四五八	男四五八	全	全
全	五學年	四四八	女四四八	全	全
全	六學年	四四八	男四四八	全	全
全	六學年	三六八	女三六八	全	全
計十二學級					
高等科一學年	四六八	男二八八	女一八八	一學級	全
全二、三學年	六六八	男四八八	女一七八	全	全
計二學級					
合計十四學級					
栗野第二尋常高等小學校					
一尋常科兒童數	二〇九人	內男	一〇五人		
一高等科兒童數	三〇人	內男	一六人		
內譯		女	一四人		
尋常科一學年	三八人	男一七人	女二一人	一學級	全
全二學年	四九人	男二六人	女二三人	全	全
全三學年	二七人	男一二人	女一五人	一學級	全
全四學年	三一八人	男一六八	女一五八	一學級	全

全	五學年	三六八	男一七人	女一九八	全
全	六學年	二八八	男一七人	女二一八	全
計五學級					
高等科一學年	一五八	男七人	女八八	一學級	全
全二學年	一五八	男九人	女六八	一學級	全
計一學級					
合計六學級					
栗野尋常小學校					
一尋常科兒童數	七六八	內男	四二八		
內譯		女	三四八		
尋常科一學年	一二人	男四人	女八人	一學級	全
全二學年	一四人	男八人	女六人	一學級	全
全三學年	九人	男五人	女四人	一學級	全
全四學年	一九人	男二人	女七人	一學級	全
全五學年	一三八	男九人	女四八	一學級	全
全六學年	九人	男四人	女五人	一學級	全
計三學級					
合計二十三學級					
兒童總數九百二十五人	內	高等科一四一人			
		尋常科七八四人			







栗野町報 第參號

大 字	口 栗 野 筈 場	組合 數	組合 員 數	町 稅	縣 稅
				納 期 内 納 入 定 額	納 期 内 納 入 定 額
		四	三六	前 年 度 納 入 步 合	前 年 度 納 入 步 合
				三、七、五、九、二	一、八、〇、六、七、〇
				三、三、〇、〇	一、七、五、一、九、二
				三、三、〇、〇	九、七、〇、〇
				三、三、〇、〇	六、一、七、八
				三、三、〇、〇	六、一、三、八
				三、三、〇、〇	六、一、三、八
				三、三、〇、〇	六、一、三、八

計 八十九組合 七百二十二 人	新 宿 町	仲 町	上 町	葉 町	横 町	中 町	岡 町	日 町	板 町	追 地	菅 沼	大 栗	上 野	下 野	柏 木
	二	七	七	四	六	五	六	四	六	四	四	九	四	四	二
	二	七	七	四	六	五	六	四	六	四	四	九	四	四	二
	二	七	七	四	六	五	六	四	六	四	四	九	四	四	二
	二	七	七	四	六	五	六	四	六	四	四	九	四	四	二

五

栗野町報 第參號

トスル時ニ方リ青年ニ神影雲々タル大乗真理ヲ吹キ  
込ムハ爛額焦眉ノ急事タラズンバアラズ世ニ論語ヲ  
讀ム可シトカ孟子ヲ讀ムヘシトカ一書ヲ指シテ云フ  
ノ不當ニ非ル限リ今數種ノ經論ヲ擧揚シテ其鹹吹ヲ  
力説スルモ甚シキ妥當ヲ缺カザルヘキヲ信ズ  
神道モ宗教ノ一部タルコト勿論ナルモ茲ニ省ク  
一、宗教的の信念ニ關スル一般狀況  
之ヲ佛道ヨリ見ルモ之ヲ神道ヨリ見ルモ宗教的の信念  
ノ下々來々ハ著シ己ニ三千年ノ昔ニ於テ釋迦ハ正法  
千年像法五千年末法万年ト喝破セリ時ニ盛衰無キニ  
非ズト雖モ概シテ向下ハ免ルヘカラザルノ數ナリ佛  
道已ニ然リ神道豈ニ然ルザルノ理ナシ殊ニ近來生活  
難ノ逼迫ハ宗教心ヲ殺グノ刀タリ昔ヨリ「信心ハ德  
ノ餘リ」ナル諺有リ生活ニ余裕無クンバ一般多乘(特  
別ノモノヲ除ク)ニ宗教心ノ涵養ヲ強要スルモ得ベ  
カラズ乍併「哀シイ時ノ神頼ミ」ナル語有リ人ハ何  
レノ場合ニ於テモ本然的ニ宗教心ヲ感セザルハナシ  
之ヲ芽生サセ培フテ成育セシムルハ正ニ宗教家ノ任  
ナリ

國 稅	稅 目	稅 額	納 入 員
前 年 度 納 入 步 合	納 期 内 納 入 定 額	一、八、〇、六、七、〇	納 稅 人 員 四、三、五、八
八、三、三	一、七、五、一、九、二	納 稅 人 員 四、三、五、八	四、三、五、八
	八、三、三		

縣稅營業稅中本年度ヨリ制定セラレタル麻仲買業ノ新  
稅目ニ基キ届出ヲナシタル者左ノ如シ

届出年月日	鑑札番號	大字	番地	氏名
大正十年六月廿日	上第一號	口栗野	九〇八	青木重吉
大正十年六月廿日	上第四號	谷	栗野九〇二	黒川市之進
大正十年六月廿日	上第六號	口栗野	二一九	黒川金彌

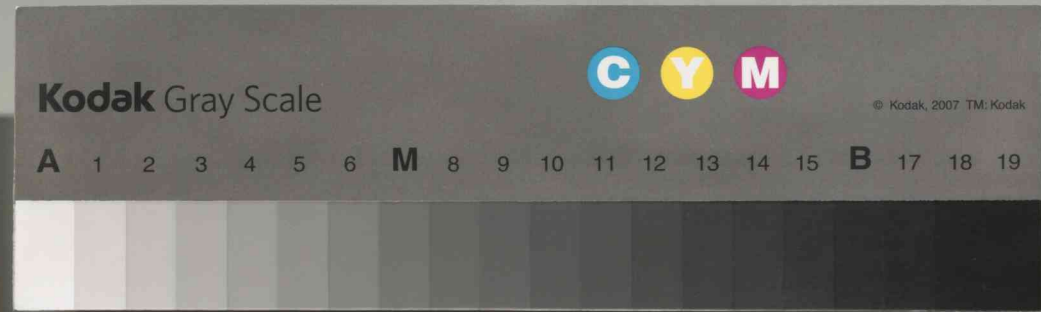
右稅目ハ從來仲買業間ノ賦課ヲ受ケ居ル者モ麻仲買ヲ  
爲サントスルモノハ更ニ別ニ届出ヲ要スル義ト承知ア  
リタシ

◎大正十年度納稅成績表

四







栗野町報 第參號

故栗野第一尋常高等小學校訓導戸坂園一郎君ハ大正十一年八月二十日五十六歳ヲ一期トシテ長逝セラル實ニ

甲 詞

栗野町長 福田 富士

タル明道舎授業生ヲ拜命シ大正十一年八月二十日終焉ニ到ル迄本町教育ノ爲メニ奮闘セラル便指レテ算フレバ實ニ四十年ニナシテトス豈ニ偉ナラズヤ易ニ曰ク神ニシテ明其人ニ存スト君カ多年教育ノ府ニ在リテ研修體験愈々圓熟ノ妙境ニ入り殊ニ初年生ヲ訓育スルニ於テ特種ノ技能ヲ有シ他ノ追隨ヲ許サザルモノアリ且ツ各家庭ノ事情ニ精通シ家庭對學校トノ聯絡其他ニ多大ノ貢獻ヲ爲シタルハ看過スベカラザル事蹟ナリトモ故ヲ以テ君ノ死ヤ本町ノ損失タルト同時ニ教育界ノ一大損失タリ死ヤ再ビ還スベカラズ然レドモ君ガ印シタルノ功績ハ永遠ニ滅ビザルナリ清ノ積善業師ヲ説ク爲シテ曰ク宇宙五大有リ曰ク天曰ク地曰ク君曰ク親曰ク師實ニ之ニ次グト今ヤ郷先生ノ死ニ遭フ嗚呼悲哉本町君ガ多年ノ効勞ニ酬ユルノ意ニ於テ甲斐金ヲ贈ル君ガ英靈尙クハ來リ響ケヨ

哀痛ノ至リニ堪エズ君資性若實風ニ身ヲ教育界ニ投ジ明治十六年七月職ヲ本校ニ奉ゼシヨリ以來茲ニ四十年一意専心致メトシテ兒童教育ニ努メ敢テ僅ムコトヲ知ラズ其教化父子ニ及ブ之ヲ以テ郡長並ニ組合會ニ其功績ノ顯著ヲ認メラレ慶ニ表彰ノ榮譽ヲ負ヘ又君ノ門弟相謀リ記念品ヲ贈リテ感謝ノ意ヲ表シタルコトモアリキ君ハ特ニ町内ノ事情ト家庭ノ情況トヲ熟知シ同僚ノ君ニ待ツコト甚ダ多カリキ然ルニ天何ゾ無情ナル病ムコト僅々一週日遠ニ不歸ノ客トナリヌ吾等ハ其病ヲ得タルノ時忽チ恢復セラレ休暇後増築工事完成ノ新教室ニテ俱ニノ大ニ爲スアラント期セシニ今ヤ其温容ヲ見ルコト能ハズ嗚呼夢カ現カ夢ナリセバ覺ムル時アルベシ君ノ行ハ永久ニ歸ラザルナリ思フテ茲ニ到レバ流涕益々禁ズル能ハザルナリ痛惜ノ極ナリ茲ニ謹ンデ弔詞ヲ述ベ君ノ英靈ヲ弔フ

栗野第一尋常高等小學校長 和賀井 福治

◎久シク早天續キテ所ニ依リテハ水田ニ龜裂ヲ生ジ畑ノ農作物ハ枯死セントスル狀態ニ立チ到リマシタノデ其處ニモ此處ニモ誠心籠メテ農家ノ雨乞ヒガ行ハレマシタ其淳朴サガ惚ハレマス處ガ二十三日ノ夜ヨリ豪

七

栗野町報 第參號

過般ノ暴風雨ニテ各河川増水汎濫シ民家ニシテ浸水セシモノ亦尠カラズ洪水後浸水家ニシテ傳染病ノ發生流行ヲ見ルハ其事例ノ存スル所ニ有之夫々之ガ豫防警戒ニ努メテ居ラル、コト、相信シ候モ本年ハ特ニ暑氣酷烈ニシテ水害後衛生状態ニ就テハ格段ノ注意ヲ致スノ要切ナルモノアルヲ認ム殊ニ時期愈々各種消化器系傳染病ノ發生流行セシムルノ時ニ當リ此際豫防警戒ニ充分ナル遂行ヲ期スルニアラズンバ水害ノ慘ニ加フルニ傳染病ノ流行ヲ來シ其ノ害ノ波及スル所實ニ寒心ニ堪エザルモノアリ因テ此際主トシテ左記要項ニ則リ夫々防疫上些ノ遺憾ナキ様努メラレ度

要 項

- 一、浸水家屋ハ自發的ニ清潔方法ヲ行フコト
- 二、清潔方法ニ當リテハ床板ヲ離開シ又ハ其他ノ方法ニヨリ床下ノ泥土ヲ掘出シテ通氣ヲ計リ土盛ヲ乾燥セシムルコト
- 三、衣類寝具類ハ數回充分日光ニ曝露シ専ラ其ノ清潔保持並乾燥ニ留意セシムルコト
- 四、浸水地ニ在リテハ此際急遽井戸ノ浚渫ヲ行フコト
- 五、家屋周圍ノ排水ニ留意シ専ラ家屋内外ノ乾燥ヲ研ルコト

彙 報

六、浸水地ガ傳染病殊ニ「チフス」ノ發生セル區内ナルトキハ特ニ細心ノ注意ヲ以テ消毒ノ清潔方法ヲ施行セラレタリ

▼本誌ノ標題ハ有名ナル書道ノ大家東京高林五峯先生ノ高弟酒井支山先生ガ特ニ本誌ヲ爲メニ麗筆ヲ揮ハレ更ニ其師五峰先生ノ鑑賞ヲ經タルモノデス

▲明治十七年七月明道舎授業生ヲ拜命已來第一尋常高等小學校ニ於テ教育ノ爲メ奮闘サレタ戸坂園一郎氏ハ八月二十日午後二時永眠サレタノデアリマス其四十年近クノ努力ニ酬ユル爲メ本町ハ弔慰金百貳拾圓ヲ贈リマシタ越ヘテ二十日曹洞宗妙見寺ニ於テ佛式ヲ以テ最モ莊嚴ニ告別式ガ行ハレマシタ其ノ席上町長不在ナリシヲ以テ代テ安發助役ガ謹嚴ノ態度沈痛哀切ノ音朗讀サレタ弔辭ノ全文左ノ通りデアリマス

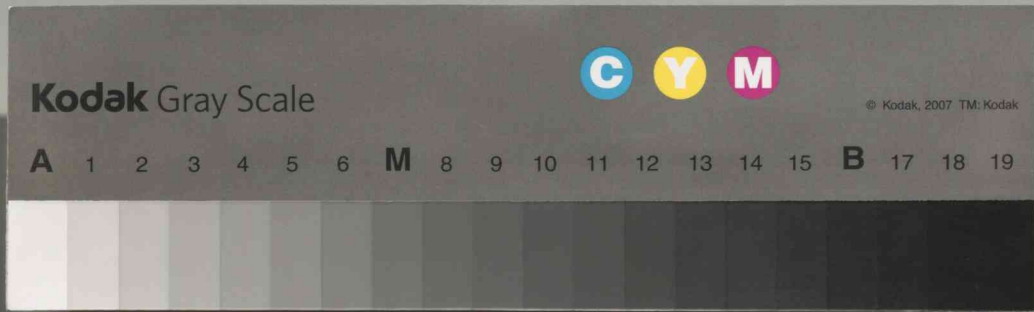
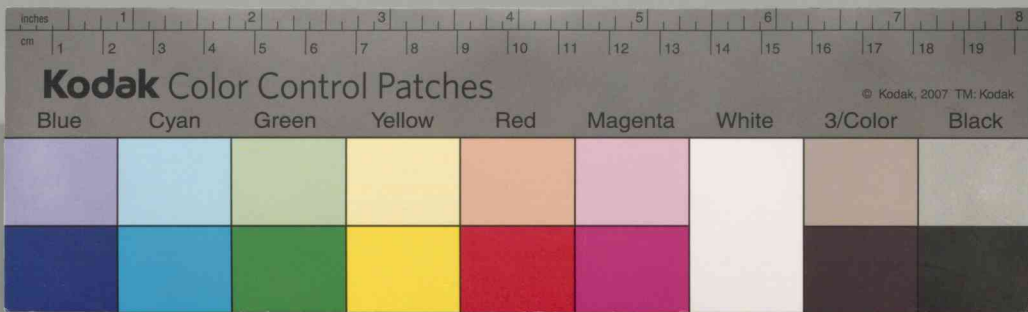
死ハ何ハモ免レズト雖モ我ガ戸坂園一郎君ノ訃報ヲ聞クモノ皆ナ意想外トシテ驚異スル所ナリ餘リシテ唐突ニ、無常ノ風刀ノ如シト古人ノ云ヘル我ヲ欺カザルナリ君ハ明治十六年七月栗野第一尋常高等小學校ノ前身

六









栗野町報 第叁號

小倉川 増水 十尺

●以上ニ依ル耕地ノ損害ヲ見積リマスト田約二千九百五十圓畑約一千叁百六十圓トナリマス一般作物ニ於ケル暴風雨ノ害ハ此ノ計算ノ外デアリマス

●八月九日郡道入栗野粟野線視察ノ爲メ原縣土木課長來町シタルヲ以テ町長町會議員同行シテ説明スル所アリタリ

●全月二十九日洪水災害現況巡視ノ爲メ青木上郡賀郡長小太刀熊務課長ヲ從ヒ來町シ安發助役嚮導ノ任ニ膺リ實地ニ臨ミ總々開陳スル所アリタリ

●八月三十日町會議員、區長(中栗野入栗野)聯合協議會ヲ開キ災害工事を付左ノ通り決議ス

一 道路被害ノケ所ハ人馬ノ交通シ得ル程度ニ一時各區民ニ於テ應急工事を施シ後日郡ヲ急破工事を設計下附ス

一 基キ各區民勞力寄附ヲ爲シ復舊工事を爲スコト

●栗野青年會ハ大字毎ニ支部ヲ置クコトヲ會則ニ規定シテアリ他ノ大字ハ已ニ支部ノ設置有リ唯口栗野ノミ之ガ設置無カリシヲ以テ九月七日午前十時栗野第一尋常高等小學校講堂ニ於テ口栗野支部發會式ヲ舉グ午後ヨリ雄辯會ヲ開キ左記歐氏交々起テ富樫那ノ辯舌ヲ振ヒ頗ル感動ヲ與ヘタリ終テ出席會員六十名前校長下崎

先生並ニ近ク物故シタル戸坂先生ノ墳墓ヲ展シ香華ヲ手向ケタル尙近ク第二次ノ雄辯會ヲ開ク事

一 投稿界ノ怪傑松辰ノ後半生

一 青年會ニ就テ 會 員 小 林 仁 次 郎 氏  
一 擊劍ヲ獎勵セヨ 會 員 内 田 平 治 氏  
一 偶感歎別 支 部 長 郡 司 義 一 氏  
一 自己ノ充實 會 長 福 田 源 一 郎 氏  
一 青年ノ奮起ヲ促ス生産検査員 鈴木 信 次 郎 氏  
一 讀書ノ快味 廣 瀬 柳 嚴 庵  
一 所 感 和 賀 井 第 一 枝 長 氏

● 韓退之ハ十二郎ヲ祭ル文塵柴舟ノ哭亡兒ヲ文ナドハ祭文ノ上乘ヲ軌範トスベキデアリマス原首相ノ用辭ハ(實ハ引導香語)ハ近來ノ大文字デ三土前輪長

栗野町報 第叁號

一 道路石積 長十間 高九尺 欠 潰

一 全上字井戸澤 全上字 井 九尺 申五尺 流 失

一 水拔 長九尺 申五尺 流 失

一 全上字池ノ端 全上字 池 長六十五間 高九尺 欠 潰

一 道路石積 長六十五間 高九尺 欠 潰

一 全所 全所 五畝步 砂 利 入

一 全所 全所 五畝步 砂 利 入

一 道路石積 長十二間 高九尺 欠 潰

一 全所字瀨岩 全所字 瀨 長十六間 高九尺 欠 潰

一 道路石積 長十六間 高九尺 欠 潰

一 全所字小田詰 全所字 小 田 詰 長十五間 高九尺 欠 潰

一 道路石積 長十五間 高九尺 欠 潰

一 全所 全所 長十二間 中九尺 流 失

一 道路面 長十二間 中九尺 流 失

一 全所字水澤 全所字 水 澤 五ヶ所 十二坪 妙 利 押

一 道路面 五ヶ所 十二坪 妙 利 押

一 全所栗野川通り右岸 全所 栗 野 川 通 り 右 岸 長二十間 高八尺 欠 潰

一 護岸 長二十間 高八尺 欠 潰

一 全上郡道入栗野線字尾鑿 全上 郡 道 入 栗 野 線 字 尾 鑿 長四十五間 高九尺 幅二間 流 失

一 道路石積 長四十五間 高九尺 幅二間 流 失

栗野町大字入栗野地内境澤

一 竹林四畝步 流 失

一 全上町道境澤線 全上 町 道 境 澤 線 長十二間半 高八尺 幅六尺 欠 潰

一 道路石積 長十二間半 高八尺 幅六尺 欠 潰

一 全上 全上 長六間 幅九尺 全 部 流 失

一 橋梁 長六間 幅九尺 全 部 流 失

一 全上 全上 長十七間半 高二間 欠 潰

一 道路石積 長十七間半 高二間 欠 潰

一 全上 全上 長十八間 高二間 幅二間 欠 潰

一 道路石積 長十八間 高二間 幅二間 欠 潰

一 全上 全上 長五間半 高二間 申五尺 欠 潰

一 道路石積 長五間半 高二間 申五尺 欠 潰

一 全上字坂ノ澤 全上 字 坂 ノ 澤 長二間 中九尺 流 失

一 橋梁 二間 中九尺 流 失

一 全上境澤右岸 全上 境 澤 右 岸 六畝步 流 失

一 大字柏木砥石柏尾川右岸 大 字 柏 木 砥 石 柏 尾 川 右 岸 電 線 籠 三十間 流 失

一 電線籠 三十間 流 失

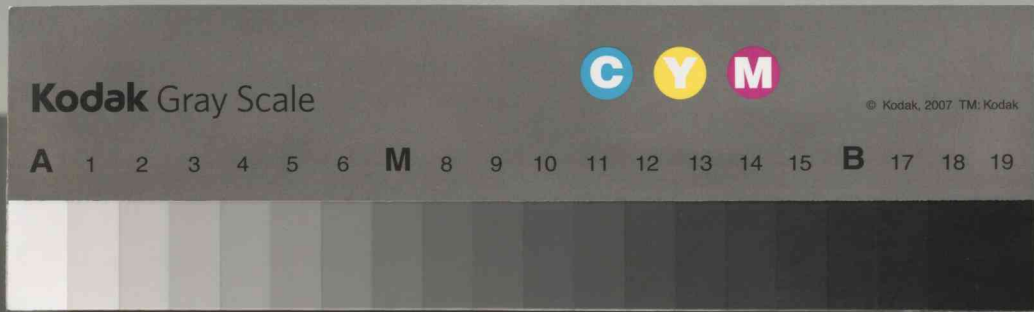
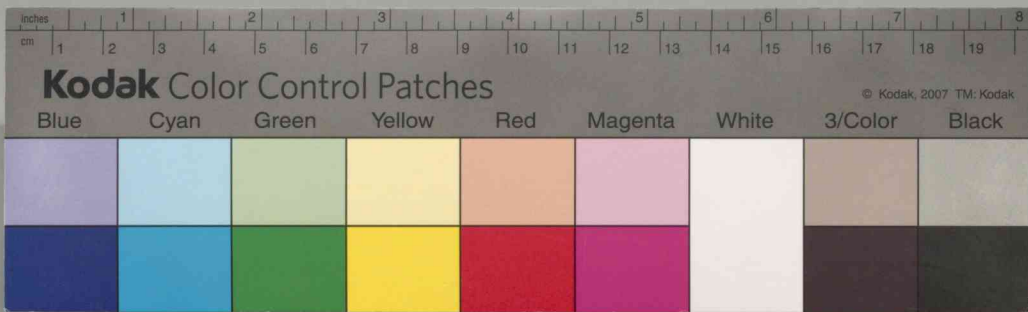
一 栗野 床下浸水五拾戸 中 栗 野 全 三十戸

一 入栗野 全 五十戸 柏 木 全 五 戸

一 栗野川 増水 八 尺 柏 尾 川 増 水 七 尺 五 寸







**栗野町報**

第四號 大正十一年十月三十日 (日曜月)

栗野町報 第四號

●九月三日町會

◎第一號 大正十一年度本町歳入出豫算追加ノ件

△原案通り可決

◎第二號 本町有給吏員規程中改正ノ件

本町有給吏員規定中第一條ヲ左ノ通り改正セ  
ントス

第一條中「其定員ヲ五名トス」ヲ「其定員ヲ六名  
トス」ニ改正ス

參照

第一條町制第七十一條ニ依リ本町ニ左ノ有給  
吏員ヲ置キ其定員ヲ五名トス

一書記(又ハ書記補共)

ノ如キハ非常ニ感激シ其代議士ハ「斯ク云フ用辭ヲ讀  
マレハナラ死シテモ宜イ」ト放言シタ相デス由來増上  
寺ハ淨土宗ノ大本山デアリマスガ誠ニ巧ニ禪宗ノ語録  
ヨリ取入レテアリマス仮ヘバ江月照松風吹良夜清宵(ハ  
何所爲)ナド古今卓絶ノ名文句ヲ隨處ニ活躍セシムル  
非凡ノ技能ヲ持ツタ人ト感服セズニハ居ラレマセン原  
家デハ後ニ石版ニ附シテ知人ニ配ツタ相デス又巖ニ本  
町ニ講演セラレタコトノアル當年自由黨ノ三傑ノ一人  
デ晩年釋宗演師ニ依テ齋髮シタ大江天也師ノ用辭モ同  
一筆法デ其宗意ヲ禪家ノ語デ行リ一代ノ事績ヲ間錯挿  
入シテ叙説スル所ニ些ノ無理モ無ク實ニ旨イモノデス  
近來漢字制限ナド八釜敷唱ヘラレ段々平易ニ傾キツ、  
アリマス 枯淡平易ハ喜ブベキデアリマスガ平板ニ陥ル  
ノト文ニ書卷ノ氣ガ少ナクナルノガ病所デス

●雨モ降り過キルト困リマス思ヒ出スノハ實朝ノ歌デ  
アリマス曰ク

時により過ぐれば民の歎きなり八大龍王雨止め玉ヘ  
ト故子規光生ハ非常ニ激賞サレテ居リマス歌ハ鬼角織  
弱ニ陥リ易イノニコレハ又爽快デ結末ノ八大龍王雨止  
メ玉ヘト叱スル如キ口吻ガ氣ニ入ツタト云ハレタコト  
ガアリマシタ

△原案通り可決

◎第三號 栗野町大字入栗野上組罹災者救助資金蓄積  
條例廢止決議變更ノ件

入栗野上組罹災者救助資金蓄積條例廢止決議第二  
條ヲ左ノ通り變更セントス

第二條 舊條例罹災者救助資金ノ基礎トシテ保存  
セラレタル金額七百三十圓ノ内六百三十圓ハ本町  
賀藤山神社拜殿建築費中へ壹百圓ハ栗野町小學校  
基本財産中へ寄附スルモノトス

參照

第二條 舊條例罹災救助金ノ基礎トシテ保存セラ  
レタル金額ノ全部ハ左記代表者ニ交附ス

大字入栗野上組代表者 神山伊重、高山定七、  
齋藤初吉

發行所 栃木縣上都賀郡 栗野町役場

印刷人 福田 菊 伊

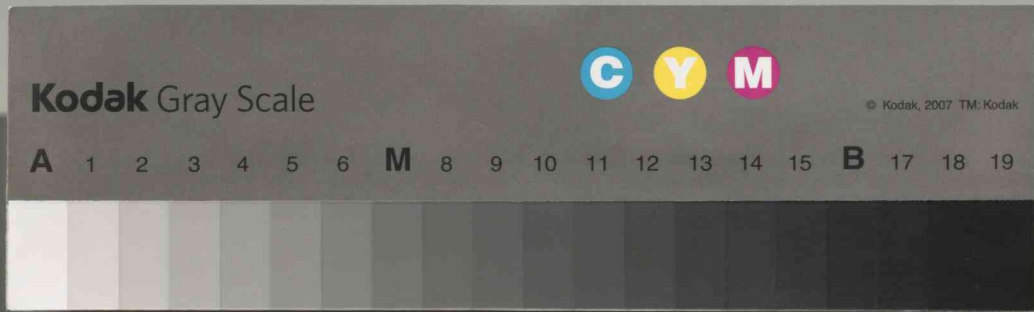
編輯兼 福田 富士

發行人

大正十一年九月十五日印刷  
大正十一年九月二十日出版







栗野町報 第四號

△原案ノ通り可決

◎第四號 粟野町大字入粟野字久保、出口、宮内三字罹災者救助資金蓄積條例廢止決議變更ノ件  
入粟野字久保、出口、宮内三字罹災者救助資金蓄積條例廢止決議中第二條ヲ左ノ通り變更セントス  
第二條 舊條例罹災者救助資金ノ基礎トシテ保存セラレタル土地粟野町大字入粟野字ハネバミ澤山林壹町歩ハ大字入粟野字宮内日光神社へ寄附スルモノトス  
但現在ノ地上權者ガ立木ヲ伐採シタルトキハ其伐採價額ノ十分ノ一ヲ大正二年四月二十九日付ヲ以テ地上權ヲ設定シタル地上權利者金子善作外二十八名ノ内現存者ニ交付ス

參照  
第二條 舊條例罹災者救助資金ノ基礎トシテ保存セラレタル土地粟野町大字入粟野字ハネバミ澤山林壹町歩、左記住所人名共有トシテ無償讓渡ス  
大字入粟野 金子常作、齋藤房吉、齋藤留吉、齋藤民吉、牧島治三郎、齋藤芳一郎、秋山美四郎、大谷助藏、小峰竹三郎、牧島廣吉、福田繁七郎、秋山菊次郎、齋藤友三郎、齋藤豊一郎、秋山利吉

◎第二號 水車水路新設ニ付意見表示ノ件  
本郡南摩村大字西澤千三百七十二番地坂巻忠一郎ヨリ當町大字中粟野字軍場三百五番ノ一神山豊太郎所者畑地並ニ同所三百八番地吉田幸造所有山林ニ別紙ノ通り水車水路新設顯出ニ付實地調査ノ處支障ノ虞無之ニ依リ此旨意見ノ表示ヲナサントス

△原案ノ通り可決

◎第三號 寄附受入ノ件  
宮城舞觀記念ノタメ本町第一尋常高等小學校第二尋常高等小學校並ニ尋常小學校へ備品トシテ福田七右衛門、大牧谷次郎、安生三郎、大貫平治、鈴木徳三郎、金子善作、松本茂次、澤村榮太郎、齋藤光次郎、安發清作ノ十氏ヨリ卓子掛三枚寄附顯出ニ付受入ヲナサントスニアリ  
當町大字口粟野福田七右衛門ヨリ第一尋常高等小學校へ石門沓石貳個取付ケ建替工事費一式並ニ堀抜井戸一ヶ所ポンプ付コンクリート流シ付一式寄附顯出ニ付受入ヲナサントスニアリ

△原案ノ通り受入可決

◎第四號 縣稅戶數割賦課ニ關スル所得額決定ノ件

栗野町報 第四號

△原案ノ通り可決

金子善代次、金子善作、福田富士、大貫市太郎、福田福松、金子兼造、大貫安太郎、福田安吉、福田惣重、宇塚佐一郎、戸山西造、大貫文吉、以上二十七名

△宿題トシテ延期

◎第五號 横町用水委員辭任報告ノ件  
横町用水委員大川勝平ヨリ用水委員辭任申立ノ處右ハ相管理由アルモノト認ム

△理由ナキモノト認メ辭任却下

◎第六號 横町用水委員選舉ノ件  
△三名ヲ増員シ三名議長指名ス計五名議長指名選任者 齋藤芳三郎、關本美保、淺野光一郎

◎第七號 本町土木委員選舉ノ件  
△投票ヲ以テ選舉ヲ行ヒ左記六名當選ス  
口粟野 福田七右衛門 全 神山 直治  
中粟野 鈴木徳三郎 入粟野 高橋伸三郎  
入粟野 齋藤光次郎 全 安生 三郎

◎十月十三日町會  
◎第一號 大正十一年度本町歳入出豫算追加ノ件

△原案ノ通り可決

庶務

◎今日我が國ニ於テ最モ憂フベキコトハ人心ガ動モスレバ真面目ヲ欠キ殊ニ節約ノ心掛ヲ失ツテ縮リノナイ生活ヲ營ム傾向ノアルコトデアル。ソウシテ此ノ弊風ハイッカ學生、生徒、兒童ノ間ニモ及ビ、單ニ外觀ニ現ハレタ所ダケニ就テ見テモ、服裝、文房具ナドニ、トカク華美ナモノヤ、高價ノモノヲ喜ブ風ノアルノハ甚ダ遺憾ナコトデアル。國家ヲ盛ニスルニハ、國民各自ガ常ニ無駄ノナイ能率ノ高イ生活ヲ營ムコトガ大切デアル。之ガ爲メニハオ互ニ時間、物資等ニ意義ガナイ無用ノ費ヲ省カケレバナラス。多クノ人ガ無用ト驚クベキ多額ノ金高トナル。例ヘバ各人ニ就テ一日ニ一錢ノ節約ヲスルト見テモ全國デ七十七万圓ノ余シ之ヲ一月ニ見積レバ二千三百十萬圓トナリ、更ニ一年ニハ二億八千余萬圓ノ巨額ニ達シ國家ニ必用ノ事業ノ爲メニ優ニ之ヲ利用スルコトガ出來ル。世ニハ往々直接自分ノ損得ニ關係ガナイコトニ就テハ、浪費ヲ省ミ







平和の色をたへつつ  
 四時の眺もどりどりに  
 國土をかざる天然の  
 森のすがらの美しや。

(一)

炭に薪に木材に  
 無限のちから出しては  
 人に與へて世を利する  
 森の恵のたまひしや。

(二)

植ゑて育てん森の木木  
 あだには伐らじ森の木木  
 いでや世の爲人の爲  
 己が身の爲國の爲

(三)

●大正十一年産葉煙草第一回納付成績 (上都賀郡)

町村名	耕作人員	耕作反別	納付量目	全賠償金	賠償金
今市町	五七	四、八五五	二、六〇三	一〇、九〇〇	二、二七七
東大井村	九	一、七七一	四、九八〇	三、六一六	二、四二一
加蘇村	一〇八	七、七五七	二、九二〇	一〇〇、四六四	二、四三二
栗野町	七	一、一〇三	一、五〇〇	二、六二五	二、四三二
鹿沼町	三三	一、五三六	三、〇〇〇	八、四九五	二、三三三
落合村	一六	一、三〇〇	二、五八〇	六、九六〇	二、九六六

●本年十月三日栃木縣令第五十六號ヲ以テ桑園基本調査規則ガ公布サレマシタ、左ニ要点ヲ摘要シマス。

第一條 桑園ノ改良ヲ圖ル爲メ本則ノ定ムル所ニ依リ桑園基本調査ヲ行フ

第三條 桑樹ノ栽培ヲ爲ス者ハ桑園一地區域毎ニ左ノ各號ヲ記載シタル標札ヲ市町村長ノ指定セル期日迄ニ建設スベシ

一、桑園ノ所在地  
 二、栽培者ノ住所氏名  
 三、段別  
 四、植付後ノ年數  
 五、桑樹ノ品種名

南摩村	一、五八	二、四〇三	四、七〇七	二、五九〇
菊澤村	九五	五、一〇七	七、三〇〇	一、四四六
北押原村	五	四、〇〇一	八、九三〇	一、七五九
南押原村	四	一、六〇三	五、九四〇	一、七〇〇
清洲村	四	一、九二四	四、八二六	一、四四五
北六間村	四	三、〇三五	五、三、七〇〇	一、五三三
計	一、〇八	三、三三三	二、五八、四〇〇	一、七、九一

ナイ人モアルガ、コレハ、唯自己アルノミヲ知テ國家社會ヲ思ハナイモノデ、此ノ考ハ甚ダ誤テ居ル。仮リニメートル使用ノ家デナイカラトイッテ電力ヤ瓦斯ヤ水道ノ水ヲ無用ニ消費スルトキニハ其家ニ取ツテ何等損失ニハナラナイヤウニ見ヘルケレドモ一町一市乃至一國ノモノガ同ジク此ノ種ノ浪費ヲ敢テスルナラバ國家社會ニ取ツテハ非常ナ損失ニナルノミデナク間接ニハ其家ニ取ツテモ不利益ヲ蒙ルワケデアル。其他何事ニ就テ斯ウ云フ不心得ナ者ノ多イトキニハ到底國家ノ隆盛ヲ期スルコトハ出來ナイ。

節約ハタダ一時ノ思ヒツキデナスモノデモナク又實富ノ別ニ依テ其心掛ニ變リノアルベキモノデモナイ。銘々ガ皆ナ常ニ自分ノ爲メニ家ノ爲ニ又社會國家ノ爲ニ實行シナケレバナラス大切ナ務デアル。

以上述べた所ハ一見極テ平易デアルケレドモ日常之ヲ實際ニ行フコトハナカク至難デアル。平素ヨリ此ノ趣旨ヲ体シテ實踐ニ努メルコトガ最モ肝要デアル。如何ニ多クノ知識ヲ有シ優レタ技能ヲモツテ居テモ社會國家ノ損失トナルヨウナ行ヲスルナラバ無智無學ノモノト何程ノ遠ガアラウカ、日々ノ項末ナコトニ就テモ節約ノ實行ナルコト夫レ自分ガ大ナル修養ノ一デアツ

テ之ニ依ツテ健全ナル國民善良ナル公民タル基礎ガ築カレルコトヲ忘レテハナラヌ。(其筋ノ通牒)

●栗野町告示第九號

衆議院議員選舉人名簿來ル十一月五日ヨリ十九日迄十五日間毎日午前九時ヨリ午後四時迄栗野町役場ニ於テ縦覽ニ供ス

大正十一年十月二十三日

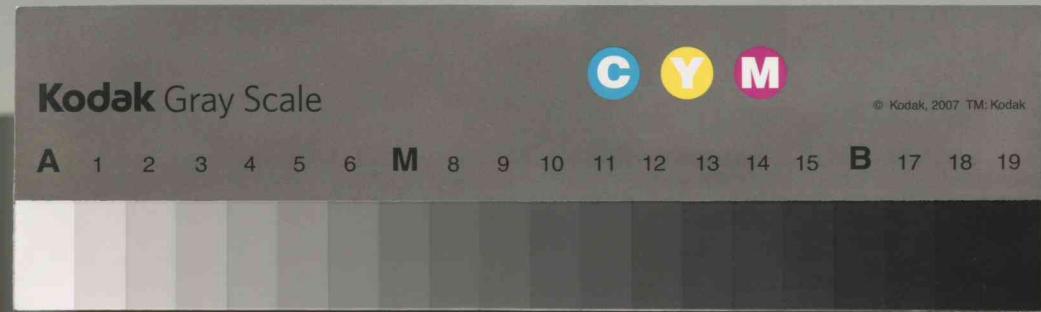
栗野町長 福田 富士

●大正十一年度縣會議員選舉人名簿ハ九月十五日現在ヲ以テ調製シ改正法ニ依ルモノ人員四百三十名全日現在舊法ニ依ル人員二百〇九名ナリ府縣別第十二條ニ據リ十月二十日ヨリ向フ十五日間栗野町役場ニ於テ一般關係者ノ縦覽ニ供スル旨十月七日付告示第八號ヲ以テ告示シ同時ニ回章ヲ以テ各區長ニ閱覽方ヲ通知シタリ衆議院議員名簿ニ登載シタル人員二百三十六名ナリ

●勸業及統計

財團法人帝國森林會選歌





栗野町報 第四號

●届出タルモ直チニ廢業シタルモノ左ノ如シ

届出年月日	廢業年月日	大字番地	氏名
大正十一年九月十日	大正十一年九月十日	八九三野	殿原 準三郎
大正十一年九月十日	大正十一年九月十日	中野野	河野 春吉
大正十一年九月十日	大正十一年九月十日	四六三野	河野 春吉

○大正十一年度下半年期戸數割賦課表

賦課總額	納稅義務者總數	所得ニ依ルモノノ總所得額	同上賦課額	歩合
二、五、〇〇	七、九、四、五	一、七、九、八、九、六、八、三	一、七、九、八、九、六、八、三	〇、三、五
住家坪數ニ依ルモノ	資産ニ依ルモノ	資産ニ依ルモノ	資産ニ依ルモノ	歩合
六、六、四、五	八、六、二、〇、三、五	七、九、〇、〇、二、八、四、二	七、九、〇、〇、二、八、四、二	〇、三、五
納稅義務者一人當賦課額	最高	最低	平均	
四、六、三、五	一、三、三、五	三、三、三、五	三、三、三、五	

納稅義務者 一戸ヲ構フルモノノ 七九一人  
獨立ノ生計ヲ營ムモノノ 八一人

栗野町報 第四號

●栗野第一尋常高等小學校及ビ第二尋常高等小學校増築落成式ハ十月二十二日午前八時第二尋常高等小學校全十一時第一尋常高等小學校ニ於テ舉行シタリ臨席者栃木縣知事代理齋藤縣視學、青木上都賀郡長、高橋縣會副議長、鹿沼稅務署長、鹿沼警察署長代理、中村上都賀郡視學、隣村々長、全青年會長、全分會長、隣村校長、町名譽職、區長、結社長等ニシテ兼劍相撲烟火活動寫眞等ノ余興有リテ盛會ナリキ簡其席上知事ヨリ表彰セラレタルモノ左ノ十六氏ナリ町ヨリモ木盃一組ヲ贈リテ禮日ノ勞ヲ稿フ所アリタリ

栗野町長 福田 富士  
栗野町小學校建築ニ方リ功勞尠カラヌ仍テ茲ニ之ヲ賞ス  
大正十一年十月二十二日  
栃木縣知事正四位勳三等 山 脇 春 樹  
(同文)  
建築委員 福田七右衛門 全 松本 淺次

栗野町報 第四號

六、春、夏、秋番專用、兼用ノ別  
七、自家用、賣家用ノ別  
第四條 郡長ハ知事ノ命ヲ承ケ市内ノ調査ノ執行ヲ管掌ス町村長ハ郡長ノ指揮監督ヲ承ケ町村内ノ調査ノ執行ヲ管掌ス

第五條 市町村長ハ大正十一年十一月一日ヨリ翌年二月二十日迄ニ調査員ヲシテ擔當調査區ノ各桑園ニ付準備調査ヲ爲サシムヘシ

第七條 市町村調査員ハ各調査事項ヲ桑園一地區域毎ニ様式第一號ニ依ル調査票ニ記入シ大正十二年三月十日迄ニ市町村長ニ提出スヘシ(様式別ス)

○本町ニ於テ栃木縣知事ヨリ桑園基本調査員ヲ囑託セラレタルモノ及ビ調査受持區域左ノ如シ

監査係 農工商統計主任 廣瀬長市郎  
農會技術員兼書記 郡司 義一

第一區ヨリ第七區迄 統計調査員 福田源一郎  
第八區ヨリ第十二區迄 統計調査員 福田重勝  
第十三區ヨリ第十五區迄 全 福田 重勝  
第十六區ヨリ第十七區迄 全 秋山菊次郎

栗野町報 第四號

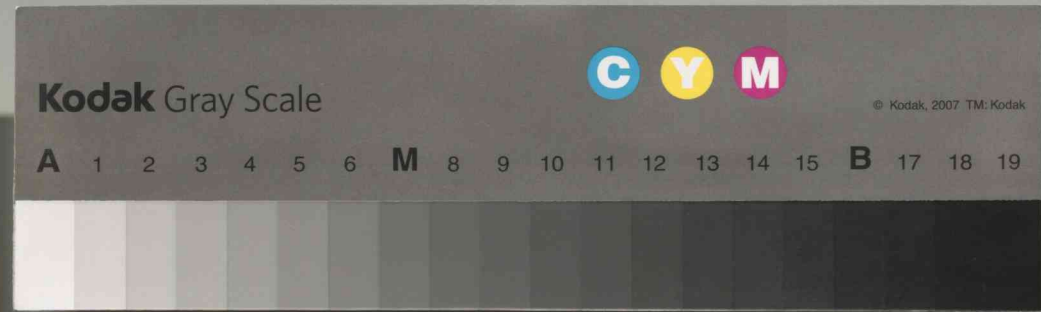
第十七區ノ内馬返ヨリ 町會議員 齋藤光次郎

●財 務

縣稅營業稅庫仲買業ノ稅目ニ對シ去ル九月中檢舉ニ依リ届出ヲナシタル者左ノ如シ

届出年月日	鑑札番號	大字番地	氏名
大正十一年九月十日	上第七一號	三〇八野	根本 文四郎
大正十一年九月十日	上第七四號	口栗野	石川 德三郎
大正十一年九月十日	上第七七號	中栗野	岩出 房次郎
大正十一年九月十日	上第七八號	口栗野	高久 亥三二
大正十一年九月十日	上第一〇一號	口栗野	宇賀 神繁松
大正十一年九月十日	上第一〇三號	八栗野	大橋 丑松
大正十一年九月十日	未 着	口栗野	内田 幸次郎
大正十一年九月十日	未 着	口栗野	松 本 保
大正十一年九月十日	未 着	口栗野	關 澤 力造





栗野町報 第四號

校舎増築ノ議ヲ決シ専門技手ニ設計ヲ委嘱シ直チニ工  
事ニ着手シ爾來當局並ニ建築委員工ヲ督シ茲ニ竣工ヲ  
告ケ本日ヲ以テ落成式ヲ舉ゲ貴紳ノ臨場ヲ得タルハ甚  
ダ光榮トスル所也而テ文化ノ淵源ハ教育ニ在スルヲ以  
テ校長並ニ職員諸氏ガ倍々本町教育ノ爲メニ盡サレシ  
コトヲ亦本校ニ昇ル生徒諸子倍々奮勵學ヲ修メ業ヲ習  
ヘ以テ本校ノ名譽ヲ擧ケラレシコトヲ望ム是ヲ以テ式  
辞トナス

大正十一年十月二十二日

栗野町長 福田 富士

栗野第一尋常高等小學校及第二尋常高等小學校増築ハ  
大正十一年一月六日栃木縣指令學第四千三百九十九號  
ヲ以テ許可ヲ得爾來工事ヲ督勵シ九月二十五日ヲ以テ  
竣工シタリ今第一尋常高等小學校ニ屬スル校舎ノ構造  
建坪等ヲ擧グレバ、平家建屋根生子飯音校舎一棟、全  
上附屬昇降所一棟、全平家建屋根生子飯音附屬廊下一  
棟、全平家建屋飯音校舎一棟、全上附屬昇降所二棟、全  
屋根附屬廊下一棟合計二百六十五坪八合此經費土  
地買入費三千七百七十七圓八十錢、整地費四千六十五圓  
建築費二万六千八百六圓七十錢、計金三万四千五百

栗野町報 第四號

九十四圓十九錢ヲ算シ第二尋常高等小學校ヲ擧グレバ、  
木造平家建屋根亞鉛引キ生子飯音校舎一棟及、昇降所  
全御眞影室一ヶ所合計八十二坪五合ニシテ此經費土地  
買入費、十四圓整地費千八百四十六圓七十二錢建築費、  
八千五百八十九圓五十錢合計一萬四千五百五十二圓二  
錢ニ達セリ更ニ第一第二ヲ合算スレバ土地買入費三千  
七百三十一圓八十錢整地費五千九百二十二圓四十一錢建  
築費三万五千三百九十六圓二十錢合計四万五千四百圓  
四十一錢ノ巨額ニ上レリ是レ皆ナ町民諸氏ガ教育ニ深  
キ諒解ヲ有シタル結果トシテ本建築ハ成レリ而テ從  
外觀ノ壯美ヲ避ケテ専ラ堅實ヲ旨トシ空氣ノ流通ニ光  
線ノ採收ニ新ナル形式ニ依リ規矩ニ則リ採長補短新  
粧已ニ成レリ爾後ノ躍進時眼目シテ待ツヘキ歟今建  
築ノ功程經過ヲ報告スルト同時ニ祝意ヲ表スルモノ也

大正十一年十月二十二日

學校建築委員總代 福田七右衛門

譚 叢

○十月二日栗野町分會ガ主催トナリ青年會ノ贊成ヲ得  
身心ノ鍛練ヲ期ス可ク一行三十九名足尾庚申山へ強行

栗野町報 第四號

町村百般ノ事業一トシテ忽諸ニ附スヘカラスト雖就中  
國民教育ノ如キ最モ緊要ナルモノトス本町茲ニ見ル所  
アリ曩ニ本校増築ヲ企圖シ經營其ノ宜シキヲ得本日ヲ  
以テ之ガ落成ノ式ヲ舉グルニ至ル豈ニ慶賀セザルヘケ  
ムヤ望ムラクハ其ノ職ニ當ルノ諸氏克ク人文日進ノ趨  
勢ニ鑑ミ任ラ盡シ實ヲ舉ケ以テ校舎増築ノ趣旨ニ背カ  
サランコトヲ

大正十一年十月二十二日

栃木縣知事正四位勳三等 山 脇 春 樹

式 辞

小倉戸 兼吉	全	安生 三郎
澤村 榮太郎	全	金子 善作
湯澤 新作	全	大牧 谷次郎
關本 美保	全	齋藤 房吉
大貫 平治	全	安發 清作
谷津 嘉一郎	全	和賀井 福治
鈴木 德三郎	全	榎木 武雄

栗野町報 第四號

本郡栗野第一並全第二尋常高等小學校ヲ舎増築功成リ  
本日ヲ以テ落成式ヲ舉行セラルル惟フニ教育ハ國家百年  
ノ長計ニシテ其盛衰ハ即チ一國ノ隆替ニ關シ特ニ國民  
教育ニ於テ其ノ緊要切實ナルヲ認メスンハアラス而シ  
テ本校舎ハ執レモ往年ノ建築ニ係リ既ニ頽廢シ來リタ  
ルノミナラズ其ノ採光換氣ト教室ノ形式トニ於テ衛生  
並教育上幾多ノ缺陷アリ加フルニ近時學齡兒童頗ニ増  
加シ校舎狹隘ヲ告グルヲ以テ蓋ニ増築ヲ圖リ今日其竣  
工ヲ輪セルハ主トシテ町民諸氏ノ熱誠協力事ニ當リタ  
ル結果ニシテ其勞多トスヘク邦家ノ爲メ亦慶賀ニ堪ヘ  
サル所ナリ今其構造ヲ視ルニ建築堅牢ニシテ通風採光  
等亦能ク衛生ニ適シ始ト間然スル所ナシ希クハ本校  
兒童並職員諸氏互ニ協心戮力益教育ノ實績ヲ擧ケ以テ  
國運ノ隆昌ニ貢獻セラレシコトヲ

大正十一年十月二十二日

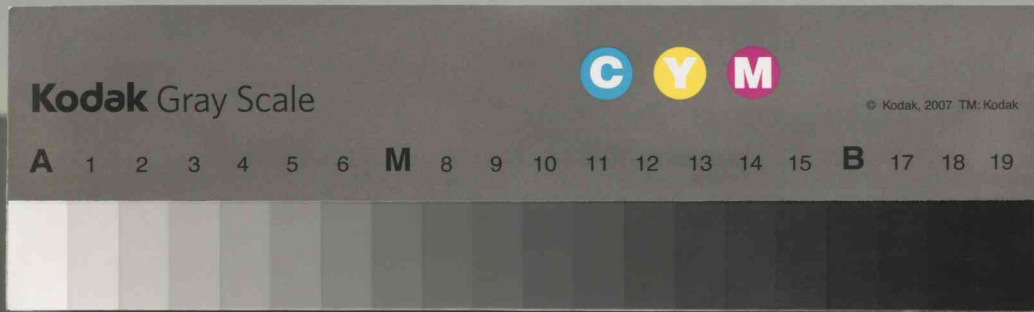
上都賀郡長從五位勳四等 青木 浦 次 郎

式 辞

本町ノ教育ハ時勢ノ進運ニ伴フテ發展シ年々就學兒童  
増加シ遂ニ校舎ノ狹隘ヲ告グルニ至レリ茲ニ於テ昨年







**栗野町報**

第五號 大正十一年十一月廿五日 (日曜土)

發行所 栃木縣上都賀郡 栗野町役場

印刷人 福田菊伊

編輯兼 發行人 福田富士

栃木縣上都賀郡栗野町大字口栗野九壹貳番地

大正十一年十月二十五日印刷  
大正十一年十月三十日出版

---

會 議

●十一月四日町會

◎第一號 縣稅戶數割賦課ニ關スル件  
金貳千五百六拾五圓也  
大正十一年度縣稅戶數割本町配當額金五千百三十一圓ノ内下半年期分

右各納稅義務者ニ對シ左ノ通り賦課セントス

大正十一年度縣稅戶數下半年期分賦課表

一、所得額ニ依ル賦課金壹千七百四十九圓八拾九錢  
所得金壹圓ニ付金四厘

二、住家坪數ニ依ル賦課金八十六圓十一錢  
住家一箇ニ付金一厘

三、資産ノ狀況ニ依ル賦課金七百貳拾九圓  
資産ノ狀況ヲ斟酌シテ六十二人ニ賦課ス

---

△原案修正可決

◎第二號 大正十一年度栗野町歲入出追加更正ノ件

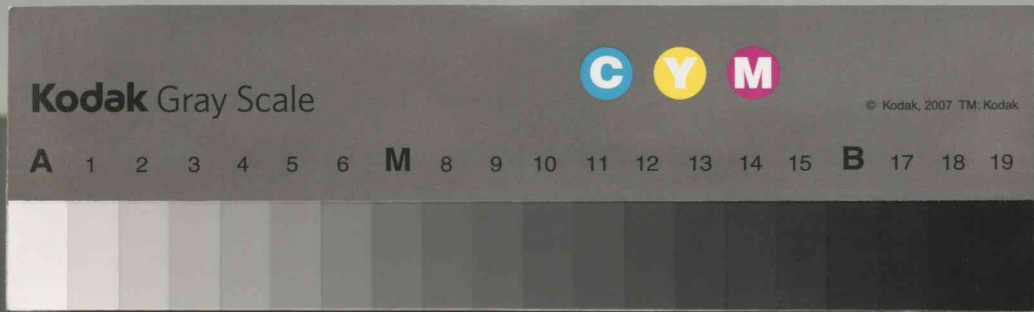
歲 入	金五万五千九百四十圓	歲 入 既定豫算額
歲 出	金五万六千六百五十八圓	歲 入 追加更正豫算額
歲 入 出 差 引 殘 金	金三万四千五十四圓	經常部既定豫算額
	金三万四千七百七十二圓	追加更正豫算額
	歲 出 合計 金五万六千六百五十八圓	

△原案ノ通り可決

◎第三號 町有土地小學校敷地ニ編入ノ件  
左記町有土地ヲ小學校敷地ニ編入セントス







栗野町報 第五號

大字	地番	地目	反別	地價	摘要
口栗野	下町	八〇五ノ四田	一六三	六四七	第一尋常高等小
全	全	八二ノ四宅地	一七七八	七〇七	學校敷地ニ編入
全	全	八三ノ二畑	五五	七三三	
全	全	八三ノ三畑	五五	七〇〇	
中栗野	大栗	一〇六ノ二畑	三三	六二六	第二尋常高等小
全	全	一〇九ノ二畑	三三	七四全	學校敷地ニ編入
人栗野	小豆	突七ノ四畑	二二	一〇〇	尋常小學校敷地
小屋					ニ編入

◎第四號 舊中栗野學校敷地無償還付ノ件  
 大正七年二月二十三日町會第七號議案第二尋常高等小學校移轉ニ付舊學校敷地無償還付議決中左記ノ土地脱漏發見ニ付元寄附者福田團藏相續人福田重勝ニ無償還付セントス

◎第五號 縣道編入ニ關スル意見書提出ノ件

△原案ノ通り可決  
 大字中栗野字三貫内式千參百參番  
 一學校敷地五畝二十步(元畑福田團藏寄附地)

△原案ノ通り可決  
 大字中栗野字三貫内式千參百參番  
 一學校敷地五畝二十步(元畑福田團藏寄附地)

△原案ノ通り可決  
 第十號 町稅附加稅率中戸數割附加稅率更正ノ件  
 大正十一年十月十三日町會議決第五號議案戸數割附加稅率ヲ左ノ通り更正ス

大正十一年度ニ於テ賦課徵收スヘキ追加戸數割附加稅金三千百八十一圓ニ對スル附加稅率ハ本稅壹圓ニ付金六十二錢ト更正

△原案ノ通り可決  
 前回繼續分  
 本町退隱料條例改正ノ件

▽宿題トシテ延期

◆勸業及統計

◎夏秋蚕 大正十一年  
 ○養蚕戸數 夏秋蚕 七二戸 丙春蚕ヲ飼育シタルモノ 六四戸

◎插立枚數 白繭種 四二七枚

栗野町報 第五號

(別紙ノ通) 末項ニ提出

△原案ノ通り可決  
 第六號 出納臨時檢査立會人選舉ノ件

△五名選出其氏名左ノ如シ  
 安生三郎、鈴木德三郎、關本美保、谷津嘉一郎、澤村榮太郎

◎第七號 第四區長死亡報告ノ件  
 第四區長梅見多平本年十月十六日死亡

△原案可決  
 第八號 第四區長及第七區長選舉ノ件

△第四區長ニ樽見喜兵衛當選第七區長ハ延期

◎第九號 大正十年度本町歳入出決算報告ノ件  
 大正十年度栗野町歳入出決算書

歳入  
 一金八万七千六百一十一圓四十二錢 歳入決算高

歳出  
 一金七万三千五百八十七圓九十三錢 歳出決算高

歳入出差引金一万三千五百七十三圓四十九錢  
 大正十一年度ハ繰越

豫想	收穫	高	第一前年	増	減
水	稻	陸	稻	計	種
一畝	一畝	一畝	一畝	一畝	一畝
五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇
一畝	一畝	一畝	一畝	一畝	一畝
五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇
一畝	一畝	一畝	一畝	一畝	一畝
五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇
一畝	一畝	一畝	一畝	一畝	一畝
五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇

◎上籾 一、八五貫 價額金三、二六圓 五、七五錢  
 ◎玉籾 四、四貫 全 金一、二四圓 全 金三、〇錢  
 ◎屑籾 一、五貫 全 金一、二八圓 全 金一、〇錢  
 計 三、八貫 全 金四、六圓

備考 氣候順調ニシテ飼育ノ經過良ク收穫高半年ニ比シ増收價格高直ヲ示セリ

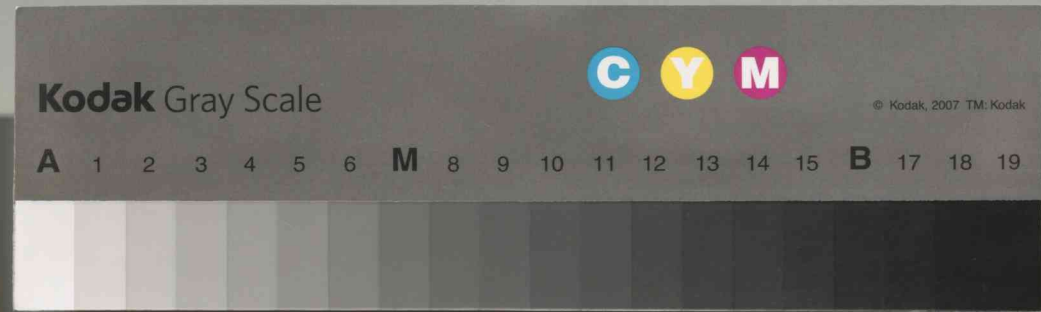
●米第二回豫想收穫高 大正十一年十月卅日現在

備考 本年ノ氣候ハ概シテ順調ニシテ植付後氣温昇騰シ成育良好ナリ  
 風水害有リタリ

大正十一年度一町三ヶ村聯合第五回水稲作  
 品評會擬賞者 主催 永野村農會

等級町村名氏	名	等級町村名氏	名
一 南摩	中島滿雄	二 栗野	福田源一郎





栗野町報 第五號

十一月十二日十三日執行本町度量衡器及計量器検査成績左ノ如シ  
提出者総數百〇四戸

種別	直尺	卷尺	量		器		衡	
			個數	不合格	全上	條續シ得ラ	廢棄セラレタルモノ	タ
金製圓形	二	二	二	二	二	二	二	二
木製圓形	九	二	二	二	二	二	二	二
木製方形	一五	二	二	二	二	二	二	二
製方概	一三	二	二	二	二	二	二	二
計	一七五	二	二	二	二	二	二	二
天秤	二	二	二	二	二	二	二	二
臺秤及自動秤	八	二	二	二	二	二	二	二
上皿秤及十分秤	一〇	二	二	二	二	二	二	二
桿秤	一三五	二〇	二	二	二	二	二	二
合計	二二〇	一九	二	二	二	二	二	二

栗野町報 第五號

大正十一年全十一年飯休及除隊者並ニ本年徴兵検査ノ結果陸軍諸隊及海兵團ニ入營スベキ現役兵人名左ノ如シ

等級	町村名	氏名	等級	町村名	氏名
一	南摩	牛久淺次郎	四	南摩	廣田晋一郎
二	南摩	青木喜代松	四	南摩	久保田保三郎
二	南摩	春山孝三郎	四	南摩	石川豊三郎
二	南摩	關口兵三郎	四	南摩	小杉孝三郎
三	南摩	廣田清四郎	四	南摩	鈴木角造
三	南摩	増山繁作	四	南摩	原田定吉
三	南摩	福田源一郎	四	南摩	伴彦治
三	南摩	神山圭介	四	南摩	清水惣三郎
三	南摩	倉澤宇次郎	四	南摩	植竹晋次郎
三	南摩	小杉長作	四	南摩	宇佐見清重郎
三	南摩	毛塚又一郎	四	南摩	以上
三	南摩	茅原政吉	四	南摩	以上

大正十一年度一町三ヶ村聯合第六回堆肥品評會振賞者 主權 永野村農會

等級町村名氏 等級町村名氏

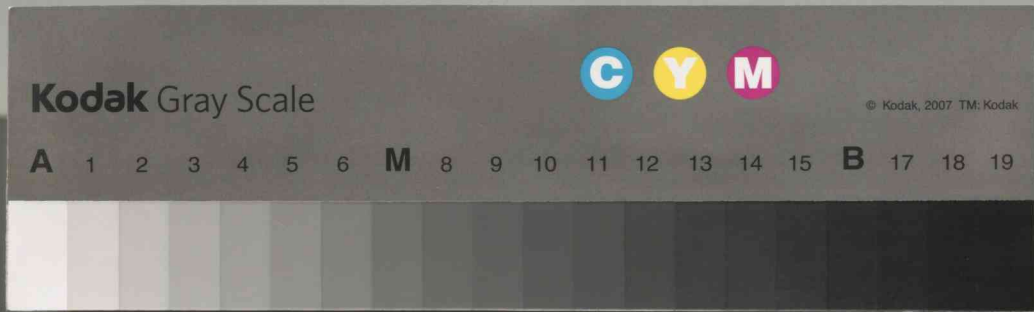
飯休、除隊者。大貫友三郎、落合梅吉、安生徳一、鈴木木勝、小曾戸文一郎、齋藤仁平、福田六平、熊倉要八、湯澤恒、望月文平、岩田直四郎、小峰保一郎、福田一郎、黒川喜市、廣田仲次、湯澤嘉一郎、松本勝太郎、福田淳、田中宗吉、神山幸一、福田篤一、大貫稻平、大澤喜市、松尾繁作、岩田和三郎、福田利三郎、安生政信、谷中敏、金子春吉、齋藤仁三郎、(三十名)

栗野町報 第五號









栗野町報 第五號

シ刺へ入栗野ニ郷社賀蘇山神社有リ又古峯ヶ原神社ニ通ズル多數ノ氏子崇敬者ノ來往頗ハ頻繁タリ現下賀蘇山神社ハ昇格出願中ニ屬ス更ニ横根山ニ縣有林ノ在ル有リ日々車馬ノ交通絡繹トシテ數十臺ヲ算フ地方産業開發上重大ナル意義アルモノト認メ茲ニ町村制第四十三條ニ依リ町會ノ議決ヲ經テ本意見書ヲ呈シ速ニ縣道ニ編入アラントヲ要ス

大正十一年十一月六日

上郡賀郡栗野町會議長町長福田富士

縣道編入請願書

栃木縣知事山脇春樹閣下

上都賀郡栗野町大字口栗野ヨリ入栗野ニ通ズル四里許ノ郡道ハ同郡鹿沼町ヨリ栗野町ヲ經テ足尾町ニ通ズル縣道ノ支線ニシテ元ト一等里道トシ縣費支辨ニ屬シタリシモ道路法改正ノ結果不幸ニシテ郡道ニ編入セラレ爾後ノ修築十分ナラズ殊ニ本年八月ノ洪水ニ伴ヒ同路線ノ復舊工事ヲ要スルコト郡費支辨ノ分ニ於テ三万圓町費支辨ノ分ニ於テ二千〇四十六圓其ノ負擔タルヤ決シテ輕キニ非ズ且ツ元トノ二等里道タル大字入栗野ヨリ同郡加蘇村大字上久我ニ通ズル支線モ町道ニ編入

山神社ハ其ノ緣起ヲ理由トシ現ニ縣社昇格ノ出願中ニ屬ス

夫レ此クノ如ク通輸交通上ニ最モ肝要ナル路線ナルヲ以テ郡道ノ處分基準トシテ内務省ヨリ内訓アリタルヤニ仄聞セリ

從來府縣道規定ノ要件タル樞要地採擇ノ標準ヲ低下セシメ其ノ認定ノ範圍ヲ擴張シタル事

從來ノ町村道ニシテ價值アルモノハ此ノ際府縣道ニ昇格セシムルモ亦妨グ無キ事

ノ條項ニ遵由スルト同時ニ本町民負擔ノ容易ナラザル狀態ヲ諒察セラレ其産業開發ノ爲メ速カニ本請願ノ趣旨ヲ聽納シテ以テ縣道編入ノ決裁ヲ與ヘラレントトヲ右謹テ請願書捧呈仕候也 恐々頓首

大正十一年十一月八日

上都賀郡栗野町長  
栗野町會議員十六名  
栗野町區長十九名  
(連署)

◎本町ニ於テハ町是第一綱目ニ基キ栗野第一尋常高等小學校講堂ニ於テ十一月一日講演會ヲ開催シ講師ト

セラレタル結果トシテ町民ノ負擔亦タ重キヲ加ヘタリ由來本町ハ第一尋常高等第二尋常高等更ニ尋常ノ三小學校ヲ有シ義務教育費ニ於テ既ニ町民負擔力ノ大半ヲ傾盡ス是レ專ラ意ヲ道路修築ニ致ス能ハザル所以也閣下請フ之レヲ諒察セヨ

而シテ此ノ路線タルヤ管ニ本町ノ產物トシテ米麥麻及ビ薪炭材木ノ輸出ニ對スル馬車ノ通行日ニ數十臺ヲ算ス而シテ之ノ販路重ニ栃木町及鹿沼町ニ求メ隨テ産業上必要ナル物資亦タ此方面ニ供給ヲ需ムニ朝粕尾川ノ氾濫ニ際シ其ノ附近道路ノ破壞シタル場合ハ栗野町ヨリ足尾町ニ通ズル縣道ノ豫備トシテ必要缺クベカラザル所ノモノ也加之本町ノ横根山ニハ縣營林有リ大字入栗野ニハ三代實錄元慶二年九月十六日ノ條ニ

十六日戊申以ニ散事從五位下藤原朝臣國香ニ爲ニ權掌侍是日櫻美濃國正五位下香間神正五位上信濃國正六位上斐科神下野國賀蘇山神社遠江國真蓋原神赤尾神瀧垂神石見國石塔鬼王帝釋天王國社神並從五位下

ト明記サレタル郷社賀蘇山神社在リ又同郡粕尾村永野村方面ヨリ古峯ヶ原神社ニ詣ル要路ニ當ルヲ以テ縣内外ニ於ケル信者ノ往來頗ル夥キニ依リ前記ノ賀蘇

シテ農商務省統計課屬托渡邊亥八氏ヲ招聘シタリ聽衆三百余名ニ達シ頗ル感動ヲ與ヘタリ

◎渡邊氏ハ「民力活套ト統計ノ普及」ナル題下ニ懸河ノ辯ヲ揮ハル氏ハ有名ナル統計大家シケラリテ空理空論ニ流レズ説ク所克ク肯綮ニ中リ吾人町村ニ在リテ實際ニ其ノ職ニ携ハルモノニアリテハ實際家ノ論議程尊クシテ眞ニ腹ノ底ニ泌ミ應ヘルモノ無ク流石ニ亥山先生ナリト感嘆ノ聲ヲ放タルモノモアリキ氏ハ往々善講妙論ヲ用ヒテ人ノ願ヲ解クモノアリ痛烈骨ヲ刺ス時有り歐米ノ例ヲ引キ經濟ノ狀態ヲ論ジ議論切精該二時間余ノ熱辯聽クモノ皆ナ醉ヘルガ如クナリキ最後ニ鐵案ヲ下シテ曰ク正確ナル統計ノ上ニ立脚シタル民力活套ニ非ザレバ畢竟空中樓閣而已ト眞ニ然リ矣々々

◎次テ東京奉仕會派遣員陸軍少將伊豆凡氏ハ「修養ノ必要ト乃本將軍」ト題シ最モ平易ニ最モ通俗的ニ説テ曰ク近年來農村ノ青年ガ輕テ浮華ニ流レ動モスレバ其顔面ニ脂粉ヲ糊塗スルモノアリ是レ亡國ノ兆ナリト斷シ青年ハ宜ク剛健質實ノ氣風ヲ養ハザルベカラズト云ヒ修養ノ方法トシテハ讀書ヲ若クハナシ併シ午ヲ書籍ノ選擇ガ亦肝要ナリ爲水春水ノ梅曆、